

開口部を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2021	1	20 ～ 22	凍結防止剤散布車へ凍結防止剤を積載しようと、倉庫の2階にある投 入口付近にて、ホイスト式天井クレーン（定格荷重2 t）を用い、凍 結防止剤の入ったフレコンバック（重量約1 t）を同車へ投入するた め誘導していたところ、柵が開放されていた搬入口の開口部（高さ 4. 4 m）から、墜落したものの。	30106	1	50～ 99
2021	1	8 ～ 10	被災者は、資材置場から約3メートル下の用水路に倒れているところ を発見された。後日、死亡が確認された。	30309	1	1～9
2021	2	14 ～ 16	市道整備工事のための工事看板設置の作業をしていた被災労働者が、 約2. 9メートル下の地面に墜落し、頭を強く打ち、病院搬送後に死 亡したものの。	30106	1	10～ 29
2021	2	16 ～ 18	被災者は、作業員Aがフォークリフトで倉庫2階に上げたロールボッ クスパレットの受け取り作業を行っていたところ、ロールボックスパ レットに積まれた荷が落ちそうになったので、手を出して荷を支えよ うと回り込んだところ、作業床端部から右足を踏み外して頭から地面 に転落した。被災者は保護帽、墜落制止用器具の着用はなかった。	80209	1	10～ 29
2021	4	10 ～ 12	地下3階で養生材を片付けていた作業員が、直径65センチメートル のマンホールから4. 5メートル下の地下4階に墜落したものの。	30201	1	100 ～ 299
			700トンバンカー上屋の北面の外壁を張る作業中、被災者が現場か らいなくなったため捜索したところ、バンカー内に墜落したことが判			

2021	6	14 ～ 16	明したため、約4時間半後に救出されたが死亡したもの。バンカーの天板の一部が腐食により開口部となっており、被災者は当該開口部からバンカー内に墜落したものと推定される。当該バンカーはコークス工場で製造したコークスを一時貯留する設備であり、災害当時のバンカー内の温度は約140度。	30209	1	1～9
2021	7	14 ～ 16	木造3階建新築工事現場におけるガラス障子搬入作業において、階段用開口部からサッシを2階床から3階床へあげている時に、3階床端部で受取作業をしていた被災者が1階床まで墜落した。ヘルメット、墜落制止用器具とも着用なし。頭蓋内損傷により死亡。	80203	1	10～ 29
2021	8	14 ～ 16	小学校の外壁改修工事において足場の2層目で窓枠のコーキングを剥がす作業をしていた3次下請けの作業員が、足場と躯体間の3.4mの高さから墜落し災害当日死亡したもの。	30209	1	1～9
2021	8	16 ～ 18	汚水処理場地下4階の斫り工事により発生した廃棄物を、同処理場各階床面に設けた開口部から電動チェーンブロックで地上に搬出した後、地下2階床面の開口部の蓋を閉める作業を被災者と共同作業者が行っていたところ、被災者がバランスを崩して約10メートル下の地下3階床面に墜落し、病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。	30110	1	1～9
2021	8	8 ～ 10	ごみ処理施設屋根上で資材片付け作業中、照明設備を取り付けるための開口部（幅90cm×長さ90cm）を塞いでいたベニヤ板（幅90cm×長さ180cm×厚み1cm）の周辺を片付けようとした際、開口部から約11m下のコンクリートフロアに墜落した。	30201	1	10～ 29
2021	9	8 ～ 10	4階建てアパート新築工事にて、建屋の鉄骨のみが組み立てられている状況下において、被災者が高さ7.4mの4階床面部分の鉄骨間に置かれた「折板」と呼ばれる幅60cmの床材（長尺のものが複数枚重ねられたものの上に、さらに短尺の折板がおかれた状態）の上に立っていたところ、当該場所から直下のコンクリート基礎床面に墜落したものの。災害発生当時被災者は墜落制止用器具を装着していたが、親綱や防綱は設けられていなかった。	30201	1	1～9

2021	9	12 ～ 14	コンクリート造2階建て宿舎の解体工事現場において、2階のベランダの手すりが外されていた箇所から約3.75m下に墜落し、頸椎を損傷したもの。医療機関に搬送後、被災者は低酸素脳症となり、ICUにて治療を行っていたが、脳の機能不全状態が続き後日死亡したものの。	30201	1	1～9
2021	11	8 ～ 10	躯体の1階において、スロープ用フレームの鋼板の設置作業中、スラブ開口部（1950mm×550mm）から、養生蓋板とともに、約4.2m下の地下1階コンクリート床に墜落し、頭部内部出血、肺損傷、骨盤・背骨骨折した。搬送先の病院において死亡した。	30201	1	1～9
2021	11	8 ～ 10	被災者はもろみが入った深さ約3mのタンクの中に墜落し死亡したものの。被災者はタンク上部のマンホールからホースで水を足し、その後ホース抜こうとしたとき、マンホールに取り付けてある墜落防止用の枠にホースが引っ掛かり、枠からホースを抜こうとしていたところ、枠とホースごとタンク内に墜落。もろみの液面高さは2.4mあり、タンク内の酸素濃度はほぼ0。被災者は酸欠か溺水により死亡したものとみられている。	10105	1	100 ～ 299
2021	12	10 ～ 12	倉庫2階に集められたおが屑を、2階床面下に止めたトラックの荷台に積み込む作業を行っていた際、2階でおが屑をならす作業を行っていた被災者が2階床面からトラックの荷台におが屑を投下するための開口部（寸法と墜落防止措置：130cm×90cm、墜落防止措置なし）よりトラック荷台上（高さは略図参照）転落し、トラック荷台のおが屑の中に埋まったもの。	10401	1	10～ 29
2020	2	14 ～ 16	浄化槽更新工事において、浄化槽の配電盤の制御部品取り換え作業中、現場代理人が、浄化槽内に溜まっていた汚水の中から発見されたもの。死因は溺死。	30309	10	1～9
2020	5	14 ～ 16	ガラス原料に用いる炭酸リチウムを投入するサイロ内において、被災者が炭酸リチウムに埋もれた状態で発見されたもの。	10902	1	10～ 29

2020	5	16 ～ 18	マンション建築現場において、マンション8階西面ベランダの天井スラブ吹付塗装施工後、被災者が同ベランダで3段脚立に乗って塗装済のベランダ内部側壁の養生シートを外していたところ、ベランダ西側の開口部からマンション2階のベランダの高さに停止していたロングスパン工事用エレベーターの搬器に墜落したものの。救急搬送されたが昏睡状態が続き、16日後に死亡した。	30209	1	1～9
2020	8	6 ～ 8	事業場北東側2階で、植木剪定作業を行っていた被災者が、吹抜けとなっている開口部（約5.0メートル×約0.85メートル）から高さ約4.7メートル階下の床面まで墜落した。なお、災害発生時、被災者は、保護帽及び墜落制止用器具等を使用していなかった。	130201	1	50～ 99
2020	9	8 ～ 10	8階建てビルの解体工事で、被災者が屋上南面においてLPガスボンベおよび酸素ボンベを用いたガスにより、鉄筋の溶断作業を行っていたところ、作業箇所付近の開口部からコンクリート破片の集積地点までの高さ約20メートルを墜落し、死亡した。	30201	1	1～9
2020	10	16 ～ 18	被災者は、事業場の倉庫1階にある型枠を2階に床上操作式クレーンを用いて片づける作業を行っていた。被災者は、同倉庫2階中央付近の床面にある開口部（194cm×150cm）から高さ3.67m墜落したものの。	30199	1	1～9
2020	12	14 ～ 16	被災者は、既設マンション屋上の消防設備の定期点検作業を行っていた。脚立に上って、エレベーター昇降路の外壁に取り付けられた煙感知器を点検し、脚立から降りる際、約17メートル下のコンクリート床に墜落したものの。なお、被災者は墜落制止用器具を装着していたが、フックを掛けていなかった。	170209	1	1～9
2019	4	10 ～ 12	木造3階建て建売住宅の建設現場において、被災者は3階の床上で移動式クレーンによる資材の受け入れ作業を行っていたところ、本設の階段設置部分の開口部から1階まで6.27m墜落したものの。被災後、診療機関に搬送されたが、同日中に死亡した。	30202	1	1～9
		8				

2019	4	～ 10	ごみ処理場のピット（深さ11m）内のごみの上に墜落（墜落高さ約7m）、パッカー車から投棄されたごみに埋もれ、窒息死したもの。	150103	1	10～ 29
2019	8	10 ～ 12	4階建建屋の屋上に設置された電気計器の検針時に、同屋上に設置されたファンの原動機から異音が聞こえたことから不具合の報告のため、当該原動機の写真を遠景から撮影しようとした際に、カメラを構えたまま吹き抜けとなっている同屋上の作業床の端に背を向けて歩きつづけたことから、当該作業床の端から3階床まで7.65メートル墜落し、死亡したもの。	150101	1	10～ 29
2019	9	4 ～ 6	午前、火力発電所において、水質計測機の警報が鳴ったため、被災者1人でボイラーの排ガスを処理する排水処理装置を確認しに行った。その後、被災者が戻らないため、現場確認したところ、装置の一角のグレーチング2枚のうち1枚（重さ約23キロ）が外されている状況がわかり、水を抜き、装置内を捜索したところ、被災者を発見。救急搬送したが、死亡が確認されたもの。	30302	10	100 ～ 299
2019	9	10 ～ 12	荷揚用開口部の工事にあたり、完成後の開口部養生施工の下準備作業を行っていた被災者が当該開口部から高さ3メートル階下の床面まで墜落した。なお、開口部は、1.4×1.4メートルで合板により1.4×0.6メートル程度にまでふさがれた状態であったが、当該合材も落下した。また、被災者は、保護帽及び墜落制止用器具は着用していなかった。	30201	1	10～ 29
2019	9	16 ～ 18	2階開口部付近にて作業を行っていたところ、当該開口部から4m下の1階床面に墜落をしたもの。	10899	1	1～9
2019	10	～ 16	自社工場内の倉庫において、事務所にいた作業員がタイヤ交換作業のため倉庫に入ったところ、頭から出血した被災者が1階コンクリート床にうつ伏せで倒れていた。その後すぐ救急搬送したが、搬送先の病院で死亡したもの。なお、被災者が倒れていた上方の2階床は開口と	30301	1	10～ 29

			なっており、被災者は保護帽及び墜落制止用器具が未着用であった。			
2019	10	14 ～ 16	工場内設備の撤去に伴い、立ち合い作業中、被災者がエア配管のバルブを閉めるため、中二階に上ったところ、撤去作業で床の一部が撤去されていた開口部（高さ約2.7メートル）から墜落し、死亡した。	10609	1	50～ 99
2019	10	10 ～ 12	共同住宅建築現場における建物内部エレベータの地下1階ピット内に、被災者が倒れているところを発見されたもの。	30201	1	30～ 49
2019	11	16 ～ 18	被災者は4階建てビルの解体工事においてガラ出し作業に従事していた。屋上にてコンクリートガラをガラ落とし用の開口部より投入し、1階スラブ上に落としていた。午後に被災者がいないことに現場責任者が気づき、辺りを探すも見当たらず、先に帰ったものと思っていたが2日後の朝、1階スラブ上のガラの山付近で倒れている被災者が発見されたもの。	30309	1	10～ 29
2018	1	14 ～ 15	製鋼所内の溶鉱炉へスクラップ等を投入するバケットコンベヤの解体工事において、被災者は高さ約16mの作業床上で操作盤等の配線を撤去する作業を1人で行っていたところ、バケットコンベヤ撤去後に生じた1辺約130cmの開口部から墜落して死亡したものである。開口部は鉄板で養生する予定となっていたものであるが事故時は養生されていなかった。	30302	1	10～ 29
2018	1	10 ～ 11	下水道敷設工事の発進立抗の埋め戻しに伴って設置される人孔（深さ約5.8メートル。）の開口部周辺において、被災者が、撤去された立抗の土留支保工の部材の整理や、当該開口部に養生として置かれていたコンパネ等を人孔の上部部材を設置するために撤去していたところ、人孔に墜落した。	30110	1	1～9
		10	建屋の一部を解体する工事現場において、同建屋2階の開口部側で作業中であった被災者が、同開口部から同建屋1階床（コンクリート製）まで3.15m墜落し、死亡したもの。災害発生時、開口部には			

2018	1	～ 11	手摺や安全带使用設備等の墜落防止措置は講じられていなかった。被災者は保護帽と安全带を着用していたが、安全带は使用していなかった。	30199	1	1～9
2018	2	～ 11	被災者が、倉庫2階の開口部近傍にて商品の仕分け作業中に、何らかの拍子で開口部から墜落したもの（高さはGLから2FLまで4.175m）。	80109	1	100～ 299
2018	3	～ 9	RC造、地上7階建内階段のコンクリート打設作業を行っていた労働者が、4階開口部から地上1Fまで10.5メートル墜落し死亡したもの。	30201	1	10～ 29
2018	4	～ 16 17	被災者は、午後からモール店舗屋上のダクトスペース外壁のガラリの錆取り作業を行っていた。被災者が作業から戻ってこないため、探索を開始したところ、約25m下のダクトスペース（ダクトが入っている空間）の地下1階のダクトの上に倒れている被災者が発見された。	150101	1	10～ 29
2018	5	～ 20 21	多目的ホール内において、被災者は他の同僚11名とともに結婚披露宴終了後の後片づけ作業に従事しており、ホール内に設置されたせり上げ昇降装置（スクリュウ駆動方式、積載荷重：100kg、搬器（テーブル）の床面積：約4.5平方m）で地下1階の倉庫から荷揚げされた造花を台車から降ろす際にバランスを崩して昇降装置の開口部から約4m下の搬器上に台車とともに墜落したもの。	140301	1	100～ 299
2018	6	～ 8 9	被災者は、現場の施工管理のため、床堀作業の写真撮影を行っていたところ、鶏舎基礎コンクリートに設けられていたコンベヤー設置用のピット開口部に足を踏み外して約1.7メートル下のコンクリート床に墜落し、病院に搬送されたものの、その後脳内出血等により亡くなったもの。	30201	1	1～9
2018	6	～ 10	くい抜機を用いて杭を抜く作業の過程で、杭にワイヤーロープを掛ける必要があるが、その作業を被災者含む2名で行った後、杭に付着していた土が落下し、被災者の背中に直撃したことによりバランスを崩	30199	10	10～ 29

		11	し、前日に引き抜いた杭穴に落下し、杭穴の底に溜まっていた泥水を吸引したことにより窒息したものの。			
2018	7	12 ～ 13	R C造10階建てマンション屋上にて、防水工事の確認作業中、屋上から外部足場へ乗り移り、足場づたいに10階共用廊下に下りたところ、バランスを崩したのか、10階エレベーターシャフト開口部から2階の養生棚まで墜落したものの。	30201	1	1～9
2018	7	12 ～ 13	被災者は第二培養室の天井付近に設置されるクーラーの修理作業のため、他の労働者2名とともに培養棚上に設置された足場板上で作業を行い、同日午後、作業を終えて地上に戻ろうとしたところ、高さ約10.9メートルの位置から地上まで転落し、全身を強打するなどにより被災して、骨盤、肋骨骨折、多臓器損傷により、死亡したものの。	30309	1	50～ 99
2018	7	21 ～ 22	工事業者により工場内でめっき槽の交換工事が行われていたが、被災者はめっき槽を撤去したタイミングでめっき槽架台の腐食状況を確認するために現場に立ち入り、槽が撤去された開口部から少し下にある架台を覗き込んでいた際に転落した。	11001	1	1000 ～ 9999
2018	7	14 ～ 15	国道沿いの道路脇の幅約1メートルを刈払機を用いて除草する作業中に、被災者が雑草等で覆われていた深さ5.6メートルの用水路の開口部へ墜落したものの。なお、事業者は工事の受注において発注者から、用水路の存在を知らされていなかったもの。	30199	1	10～ 29
2018	8	14 ～ 15	被災者は、工場棟3階にある投入ステージ（ゴミ収集車が持ち込んだごみをごみピット内に投入する場所）において、投入扉の前に落ちていたトレーを手で拾ってピット内に落とし入れようとしたところ、前向き状態で深さ約17メートル下のごみピット内に墜落し、搬送先病院にて死亡したものの。災害発生時、投入扉は全開であり、被災者は、保護帽、安全帯を着用していなかった。	150102	1	10～ 29
		8	1Fにて産廃用コンテナをトラックから降ろした後、トラックを待機場所に移動した。2次協力会社作業員がトラックへ廃棄物の積み込みを開始、その後終了したため被災者を探したところ、コンテナ設置場			50～

2018	9	～ 9	所に隣接する立体駐車場B 3ピット（深さ17m）で倒れているのを発見し消防署に連絡した。救出され病院に搬送されたが、死亡が確認されたもの。	150102	1	99
2018	9	～ 13	12 木造2階建新築工事において、2階部分の建方作業中に、約3.1m 下のコンクリート基礎部分に墜落し、頭部を強打した。被災者は、同 日死亡した。	30202	1	1～9
2018	9	～ 15	14 商業ビル解体工事現場において、被災者は7階フロア上にてエレベ ーターシャフトを利用して解体ガラを投下する準備作業中、何らかの理 由により開口部となっているエレベーターシャフトより解体ガラとと もに1階まで墜落した。	30209	1	1～9
2018	10	～ 17	16 天井改修建築工事現場において、建屋内部に設置した足場（7層目） の開口部から切断して束ねた吊りボルトを荷下ろしするため、解体材 を移動していたところ、体勢を崩し開口部から約12メートル下の床 面に墜落した。	30209	1	10～ 29
2018	10	～ 11	10 橋台の周囲の鋼矢板内（幅25m）にダンプで運ばれた土砂をダンプ アップして投入して埋め立てる作業で、ダンプの誘導者が、埋立開始 間もない約3.2m下の埋立地面上に墜落した。墜落状況の目撃者は おらず、鋼矢板内にいた作業者二人が墜落した音を聞いて振り返り被 11 災者の墜落に気付いた。鋼矢板の天端は地上と同じ高さであり地面以 上の突出しも無く、その他端部の目印や墜落防止措置は何も無かつ た。	30106	1	30～ 49
2018	11	～ 9	8 ビルの新築工事現場において、被災者は11階エレベーターシャフト 内の仮設デッキプレート上にてラス取付け作業中、仮設デッキプレ ートが未敷設の開口部分に敷かれていた養生シートを踏み抜き1階まで 墜落した。	30201	1	1～9
			ホテル内の乗用エレベーターの点検にあたり、搬器を8階に停止させ て搬器内の照明とスイッチを切り、エレベーターの扉を開放した状態			

2017	1	8 ～ 9	にしてから屋上機械室の電磁接触器の部品交換作業を同僚とともに行った。その後、被災者はエレベーターの試運転を行うために、停止している搬器に乗ろうと7階のエレベーターの扉を開けて足を踏み入れたが搬器は8階に停止していたため、そのままエレベーター昇降路内へ墜落した。	170209	1	100 ～ 299
2017	2	12 ～ 13	下水処理ポンプ場において、被災者がグレーチング張りの床面の上からホースで散水し、雨水自動除塵機の洗浄を行っていたところ、何らかの理由でグレーチング1枚（約30キログラム）が外れ、そのために生じた開口部から約6メートル下の雨水沈砂池に墜落し死亡した。	11603	1	10～ 29
2017	2	12 ～ 13	下水道浄化施設の水処理機械設備の設置工事現場において、5-返送汚泥流入可動堰開閉器架台上で、開閉器スピンドルカバーに文字を記入している際に、昼食の時間となったため作業を中断し、開閉器架台上から後側にある点検用の開口部（縦105cm、横107cm）に設置している合成木材製蓋の2枚のうち1枚（縦60cm、横107cm）の上に降りたところ、蓋と一緒に約7m下のコンクリート地下面に落下した。	30302	1	1～9
2017	4	10 ～ 11	風力発電所にある発電機内でオイルフィルターの交換作業を終え、交換作業に使用した工具等をタワー踊場にあるウインチを使用して地上に吊り下ろすため、被災者は安全帯を使用せずに工具等が入った2つの袋をウインチのフックに掛け、当該ハッチ（約70cm×70cm）を開けたところ、荷がウインチのフックから外れ、外れた荷をつかんだところ、荷とともにハッチから約5.5m下に転落して脳挫傷により死亡した。	170209	1	1～9
2017	5	12 ～ 13	ずい道の立坑（深さ約40m）に、7.2メートルの高さごと4段にステージを設置し、グレーチングを敷いていたが、掘削設備等の搬出のため、各段のグレーチングを一部外し、開口部を設けた。設備の搬出後、当該開口部を下の段から塞ぐ作業を行っていたところ、下から2段目のステージにおいて、開口部を塞ぐ作業を行っていた労働者	30102	1	1～9

			が、当該開口部から一段下のステージに墜落した。			
2017	6	8 ～ 9	被災者は居住用マンション（RC13階）の外壁（タイル）補修工 を行う予定で、5階屋上に設置されてあったゴンドラに乗り込もう と、高さ120センチメートルの手すりを乗り越えようと、パラペッ トに足を掛けて手すりを乗り越えようとしたところ、バランスを崩し 高さ約13メートルから誤って墜落した。	30201	1	1～9
2017	6	16 ～ 17	既設建屋の外壁塗装作業に従事していた下請業者の被災者が、建屋1 Fピロティの開口部より、深さ約3.7mの地下ピットに貯留してい た深さ約2.7mの水面に墜落し、溺死した。	30209	10	1～9
2017	7	10 ～ 11	被災者は、災害発生現場であるマンション内の清掃業務を行ってい た。被災者は敷地内にある雨水枡（タテ45cm、ヨコ45cm、深 さ80cm）の蓋を開け、枡内に自身の右腕を入れ、そのまま枡内を 覗き込む形で上体を入れた後、枡内に頭から落ち込んで脱出できなく なり、雨水枡内部に溜まっていた水（水位約12cm）を吸入したこと により、溺死した。	150101	10	300 ～
2017	8	20 ～ 21	マンション管理業務を行う被災者が、マンションの雨水升（幅45c m、奥行45cm、深さ150cm）に墜落し死亡した。	80409	1	300 ～ 499
2017	9	8 ～ 9	浄化センター水処理棟内において、浄化槽の防食被覆工事のため、当 事業場の代表を含めた作業員4名にて棟内床面の養生作業をしていた ところ、午前9時30分の休憩時間に作業員1名がいなことに気づ き、付近を捜したところ、浄化槽内の底部（深さ5.6m）におい て、被災者が倒れているところを発見し、搬送先の病院にて死亡が確 認された。	30309	1	1～9
2017	12	0 ～	床版コンクリート打設後の養生の状況を確認するため、被災者が見回 り後帰宅すると部下に告げ、19時頃に現場を見回りに行ったが、翌 日の朝、橋脚脇に倒れているところを発見された。被災者の直上約2 0m上には橋梁工事のために設置した張出足場があったが、養生のた	30105	1	1～9

		1	めに風管を通す必要から、足場板（巾25cmが2枚）が外された開口部があったため、被災者は当該開口部から墜落したものと推定される。			
2017	12	8 9	軽装鉄骨造の2階建てアパート新築工事において、外装工事を行う2次下請会社の被災者が、2階北側の開口部（139cm×139cm）の端にて壁パネルの調整を行っていたところ、囲い等の墜落防止措置が講じられていない開口部から3メートル下の地上に墜落し、その際頭蓋骨及び頭蓋底を骨折し、硬膜下血腫により死亡した。	30201	1	1～9
2016	2	10 11	木造2階建て住宅新築工事において、2階建物内部で床材となるベニヤ板を貼っていた被災者が、張り出して仮置きしていたベニヤ板に乗り、いわゆる天秤の状態となって墜落した。2日後に病院で死亡。	30202	1	1～9
2016	3	9 10	工場2階の物品揚降口（150cm×183cm）の床蓋を開口させるにあたり、テルハ型クレーンを使用して床蓋を吊り上げたところ、蓋が手すりに引っかかったため、直そうとして物品揚降口の開口部から3.9m下方の1階床面に墜落した。	10209	1	10～29
2016	3	3 4	SRC造、5階建てのビルの解体工事中、屋上で、ペントハウスを解体した際に発生したコンクリートガラの回収作業を行っていた被災者が、屋上の開口部から約11m下に転落した。	30201	1	10～29
2016	4	15 16	解体工事現場で、地下のピットに溜まった雨水を排出する作業にあたり、地上部分に手摺りを設置していたところ、手摺りが外れ約3.5m下の地中梁上に落下した。	30209	1	10～29
2016	5	10 11	地上6階地下1階建てS造の会館の解体工事現場において、被災者が4階スラブにおいてスラブデッキの溶断作業中に4階スラブの一部を1階に落下させたところ、それによってできた開口部から地上まで墜落し死亡した。	30201	1	1～9
2016	8	15	SRC造7階建てビルの解体工事現場で、一次下請けの労働者として就業していた被災者が、散水作業を行っていた別の労働者の要請を受け、作業を交替するため建物7階の散水箇所に向かう途中、7階の床	30201	1	1～9

		16	に開けられた開口部（1.5m×1.4m）から1階まで約2.4m墜落し死亡した。			
2016	8	9 ～ 10	4階建て建物新築工事現場の1階床面において、床開口部のベニア養生を解体し、手すりを設置しようとしていた所、他の作業者が床開口部養生があると思い通行しようとして、1階床開口部から地下1階部分に墜落した（墜落高さ4メートル）。	30203	1	10～ 29
2016	9	21 ～ 22	鉄鋼コイルを6分割に切断して巻き取る工程において、コイルの切断面の確認作業を行っていたところ、深さ2.2メートル（底部に水深0.2mの汚水が滞留）のピットに転落し2日後に混合水の誤嚥による化学性肺炎により死亡した。なお、被災者は、転落時に意識を失ったが、同僚労働者が水面から抱き起したところ、意識を取り戻し自力で地上まで昇った後、救急搬送されていた。	11209	1	30～ 49
2015	2	11 ～ 12	3階建、戸建木造住宅の解体工事において3階から内装ボード（1枚当たり5キロ前後）を地上のコンテナボックスに落とし入れていた際、何らかの原因で地上まで6.14m墜落したもの。（推定）被災日の11時30分頃、被災者に声を掛けにいった職長が地上でうつ伏せに倒れている被災者を発見し、救急要請、病院に搬送され、死亡が確認された。	30202	1	1～9
2015	3	11 ～ 12	事業場内の沈殿池（水が抜かれた状態）中央のくぼみ付近で倒れている被災者が、他の労働者により発見され、救急搬送されたが、脳挫傷により死亡したもの。被災者の倒れていた箇所の上方には作業床（池の底面より高さ約4メートル）があり、被災者の発見時、当該作業床に設置された水の配管バルブは開放状態となっており水が流れ出していた。〔確定報告〕	20202	1	1～9
2015	4	9 ～	7枚で構成する反応槽の蓋が2枚外れたため、被災者を含む5名で蓋の復旧作業を行っていたところ、被災者が乗っていた蓋が脱落し、反応槽に墜落した。反応槽は深さ1.2mで、約1.1m汚水が滞留している状況であったが、槽の内部が酸欠環境であったこと等から、速やか	11603	1	50～ 99

		10	に救出ができず、死亡に至った。（発生から4時間後に救急隊員により発見された）			
2015	3	7 ～ 8	被災者である重機操作者が、2階スラブ上にて解体手順の打合せを終え、重機へ移動していた際に、開口養生していた蓋板に足をかけたところ当該蓋板が外れ、開口部から1階床面まで高さ8.7m墜落し、死亡したもの。蓋板は開口内部の既設ダクトに架ける構造となっていたが、前日に下方から引き抜くようにしてダクトが撤去されていたため、蓋板を固定する支持物が存しない状況となっていた。	30201	1	30～ 49
2015	7	19 ～ 20	被災者が、営業所内1階の破材置場内に設置された段ボール圧縮機に押しつぶされた状態で発見されたもの。営業所内3階においてベルトコンベヤーを使用して廃棄段ボールを搬出中、ベルトコンベヤー端部より約1.1m下にある段ボール圧縮機内に墜落し、段ボール圧縮機に押しつぶされたものと推定される。	40301	1	100 ～ 299
2015	11	11 ～ 12	木造2階建て新築工事現場において、被災者は、2階床のベニヤ板を張るための、のり付け作業中に、後方の開口部から墜落し、3.37m下の1階土間コンクリートに頭部を強打して死亡した。	30202	1	1～9
2015	8	9 ～ 10	浄化センター沈砂池機械室棟3階において、天井に設置された火災報知器の点検作業中、ダクトを通すために設けられていた床面の開口部から地下2階まで墜落したものの。	170209	1	1～9
2015	6	13 ～ 14	被災者は、災害発生当日の午前中に、現場1階にて芝生の搬入作業等を行っていたが、昼休憩時に喫煙所から出て行く姿を目撃されて以降行方不明となっていたところ、地下1階のOAシャフト内の底部コンクリート上に死亡した状態で横たわっているのを発見されたもの。	30201	1	10～ 29
2015	4	9 ～ 10	平成27年4月18日午前9時18分頃、被災者が屋根補修作業の一環として2人1組で鉄骨取り付けの準備作業である水系張りの作業を行っていた際、蓋付きの冷気取り入れ用の機器の挿入口の上に乗ったところ、蓋が開き、約9メートル下の地上に墜落したものの。	30209	1	10～ 29

2015	7	14 ～ 15	物流センターの中2階に間借りする事業場において、商品（カレンダー）のラッピング、箱詰め及び出荷仕分け等の作業に従事していた被災者が、箱詰め梱包済みの商品（60冊／箱×6箱、計60kg）を出荷パレットに積むため台車で運搬していたところ、安全柵を取り外していた荷揚開口部から約2.8m下に墜落し、頭部を強打したため、搬送先の病院で死亡した。	11709	1	1～9
2015	9	14 ～ 15	被災者は、1階バックヤードにて、非常用はしご室内（床面積2.03平方メートル）に立ち入り、検品のため商品搬送用台車に使用する棚板を格納していたところ、非常用はしご室の開口部（0.71m×0.42m）から4.47m下の地下1階に棚板ごと墜落した（現認者なし）。作業時、非常用はしご室は、地下及び1階ともに消灯していた。	80209	1	100 ～ 299
2015	2	16 ～ 17	建物の2階床面の墨出し作業を行っていたところ、同床面の開口部（750mm×750mm）より1階の床面へ約3.25m墜落し、脳挫傷等により翌日死亡した。	30201	1	1～9
2015	10	10 ～ 11	既存建物の解体工事において、被災者は、解体中の建物中の建物6階で散水作業の準備を行っていたところ、2m四方の開口部から約19m下の1階床面まで墜落した。	30309	1	1～9
2015	10	10 ～ 11	新築木造平屋建ての上棟後、屋根のルーフィング（防水シート）貼りを屋根吹抜け部分5m程を残して終了した。その3日後、未貼部分のルーフィングを貼るため、ルーフィングのロールを持って屋根に上ったところ、未貼付近の雨除けのためブルーシートを張っていた屋根吹抜け部分の開口部（1.77m×1.75m）から約5m下のコンクリート床に墜落し、収容先の病院で死亡した。	30209	1	10～ 29
2015	5	12 ～ 13	昼休み時間となり、被災者は工場建屋2階で1人で休憩をしていた。代表者が1階で作業をしていたところ、大きな音がしたため、エレベータに向かったところ、1階に停止していた搬器床上に被災者が仰向けで倒れていた。病院に搬送されたものの、同日18時15分、多	11703	1	10～ 29

			発外傷による失血死により死亡した。			
2015	5	10 ～ 11	ビル解体工事の6階の屋上で、解体用車両系建設機械のアタッチメントの交換作業を行っていた被災者は、同作業を終了し階下へ降りて行った。その後、工事現場の作業員が、2階から6階の各床面に設けられていた解体材荷卸し用の開口部（約1.5m四方）の直下の1階床面に倒れている被災者を発見した。被災者は病院へ搬送されたが、同日死亡が確認されたもの。	11702	1	1～9
2015	10	15 ～ 16	農家から搬入された茶葉を裁断するための加工場で、周辺の各種関連機械の運転状況を監視していた運転員が、加工場内の通路脇の開口部（傾斜コンベヤーが設置されている開口部、幅0.49メートル、最深部1.35メートル）に墜落している状態で発見された。	10109	1	10～ 29
2015	8	13 ～ 14	6階建てビル解体工事のうち、屋上階において外部仮設足場補強用の単管等部材の運搬作業に従事していた被災者が、同階南西角に設けられていた解体ガラ投棄用開口部（縦1.7m、横3.0m）から墜落した。開口部は各階のほぼ同位置に同サイズで設けられており、屋上階まで吹き抜け状となっていたため墜落高さは約21mとなるもの。	30201	1	1～9
2014	2	15 ～ 16	終末処理場内の最終沈殿池に設置されているスカムスキマー（あく取り機）の整備のため、つり足場を設置した。整備終了後、当該足場を解体し、スラブ上に2名で移動させ置いたところ、部材が沈殿池上に飛び出す位置であったことから、被災者が位置を直そうと引き寄せたところ、バランスを崩し沈殿池の開口部から4.8m下に墜落した。	30302	1	1～9
2014	2	11 ～ 12	被災者は、ビルの改修工事にて、内装材の撤去作業を3階で行っていたところ、新たに設置するエレベーターの設置予定箇所の開口部から、何らかの理由で、1階まで約5.6メートルの高さを墜落した。	30209	1	10～ 29
2014	4	10 ～	地下中2階の床面に、デッキプレートを敷設する作業中、幅1.65mの開口部に掛け渡したデッキプレートの上を通行しようとした被災者が、デッキプレートとともに墜落。被災者は、約7m下の地下2階	30201	1	30～ 49

		11	床面から立ち上げられた鉄筋の上へ落下し、死亡した。			
2014	5	13 ～ 14	解体中の躯体4階部分に設けられたガラ投下用の開口部から、1階部分まで約10m墜落した。	30209	1	1～9
2014	11	11 ～ 12	エレベーターシャフト側に手すり単管を取り付けていた際、手すり2段目の手すりに片足を載せ、体重をかけ、安全帯フックをかけ直そうとしていたところ、手すりが脱落し、反動でシャフト内に墜落した。尚、安全帯は2丁がけであり、うち一丁は2段目手すりにかけていたが、手すりの脱落とともに外れた。	30201	1	100 ～ 299
2014	11	9 ～ 10	排水処理施設増設工事にて、電気工事を行っていた被災者が、沈殿槽と呼ばれる槽に転落し、死亡した。	30301	1	1～9
2014	12	16 ～ 17	消防設備の点検の際、マシンハッチの蓋を開ける作業中、蓋の重みを支えきれず、蓋と共に地下へ転落し、死亡した。	170209	1	30～ 49
2013	4	13 ～ 14	被災者は、大型エアコンの熱交換器の取り替え工事を行っていた。工事を終え片付け作業中、地下ピットに置いたあった空のポリタンクをロープで引き上げるため、1階で1階フロアのグレーチング1枚（約60kg）を外そうとして、約6m下の地下ピットに転落した。	30302	1	1～9
2013	6	13 ～ 14	地下1階型枠解体作業中、被災者は、足元周りで金物を拾い集める作業を行っていた。地下2階において清掃を行っていた配管工2名が物音を聞き、駆け付けたところ、被災者が仰向けで倒れているのを発見した。	30209	1	1～9
2013	8	12 ～ 13	被災者は、社宅向けエレベータ据付工事にて安全パトロールを行っていた。その際、4階にいた被災者は、5階に設置されている三角足場を目視確認しようとしたが、5階へは階段が仕上げ中のため行くことができなかったため、4階から安全柵を開けてEVピット内を覗いた	170209	1	100 ～ 299

			際、ピット内最下部まで墜落（約10m）したと推測される。			
2013	8	23 ～ 24	事業場の車両整備工場内において、深さ161センチメートルの車両整備ピット内に転落し、頭部を打撲して死亡した。	40201	1	100 ～ 299
2013	8	9 ～ 10	発電所建屋の解体に伴う測量作業を行っていた際、被災者は、発電機撤去後の開口部（地下2階までの深さ12m）から墨の位置のまでの計測のため、スチールテープを持って開口部付近に立入ったところ、当該開口部より地下2階に墜落し死亡した。尚、当該開口部の周囲には鋼管製の転落防止柵が設けられていたが、被災者は当該柵の扉を開けて開口部付近に立入った。	30101	1	1～9
2013	10	15 ～ 16	ビルの解体工事現場で、6階床にて同階にある什器類を、床に開けられた「ダメ穴」から1階に落とす作業をしていた被災者は、什器を持った際に自重のバランスを崩した等の理由で、什器と共に1階床まで墜落した。至近で作業をしていた労働者は2名いたものの、同作業場所は電灯が無いため暗く、その2名の労働者も被災者以外の方向を見ていたため、被災者墜落の瞬間を現認したものはいない。	30201	1	1～9
2013	8	14 ～ 15	被災者は、工場屋根に取り付けられている空調ファンの清掃作業を行っていたところ、空調ファン付近に設けられていた天窓を踏み抜き、9.3m下のコンクリート床に墜落し死亡した。	150101	1	1～9
2013	1	14 ～ 15	被災者が、一人で、倉庫2階ローリングタワー上（地上からの高さ7.8メートル）において、荷物用エレベータ設置のための鉄骨枠組み作業として鉄骨部材を取り付けようとしたところ、2階床部はエレベータ設置のため開口部となっていたため、1階まで墜落し、頭部等を打って死亡した。	30209	1	1～9
2013	4	15 ～ 16	立坑の底部の調整のため、モルタルをバケツに入れ、積載型トラッククレーンで立坑下に下ろす際、被災者は立坑の端部に立ってリモコンでクレーンを運転していたが、荷が振れたので手で抑えようとして、立坑下に墜落した。	30106	1	30～ 49

2013	10	10 ～ 11	工場内の倉庫片付け作業に従事していた労働者が、同僚1名とともに、サクランボパック（500g入りのさくらんぼのポリスチレン製容器）1000個が入った段ボール箱47個を工場内の中二階の資材置き場に片づけていたが、中二階の開口部から約2.6メートル下の1階床に墜落した。	30309	1	1～9
2012	9	14 ～ 15	被災者は市のクリーンセンター整備工事において、可燃物処理施設の屋根部でALC板を取付けたあとの目地にモルタルを流し込む作業を行っていた。屋根部には機械搬入用の開口部があり、その開口部（約7m×約9m）から被災者が約10m下のコンクリート床面上に転落した。なお、作業はモルタルを容器に充填しながら目地に沿って引っ張りながら行うもので、被災者はモルタルを目地に流し込むための容器を引っ張る作業を行っていた。	30201	1	1～9
2012	10	16 ～ 17	鉄筋コンクリート2階建ての解体工事において、内装部品等の撤去後に2階床面に発生した開口部（2.7m×1.7m）から約3m下の1階床面に墜落した。	30209	1	10～ 29
2012	9	8 ～ 9	製造所の新造船内において、船倉内の工事孔の閉鎖準備作業中、被災者が、ロー・スツールと呼ばれる船倉と船倉の間の空間を移動していたところ、床面に設置されていたバラストタンクへ通じるマンホールの開口部（楕円状60cm×40cm）から墜落し、頸椎を損傷した。	11501	1	10～ 29
2012	9	13 ～ 14	スレート葺き建物の屋根材を撤去する作業中、被災者は屋根の石膏ボードを踏み抜いて約5mの高さから墜落した。	30202	1	1～9
2012	3	15 ～ 16	被災者は立体駐車場の機械部分等の保守点検作業を実施するため、高さ約16mの箇所に自動車用搬器の上に乗って移動し、当該自動車用搬器を作業床として、駆動部分等の点検を行っていたところ、開口部から墜落した。	80409	1	10～ 29
2012	11	9	被災者はスタッカークレーン（自動倉庫）の2階部分のラックがある床の清掃作業を行うため、モップを持って移動していた際、約10m下の	10803	1	300

		10	クレーンの走行レール部に墜落し、死亡した。			～
2012	10	13 ～ 14	木造瓦葺2階建ての新築工事現場において、2階床面で筋交いプレートの取付作業に従事していた被災者は、高さが約3mの2階床面の開口部から1階土間へ墜落して頭部を強打し、頸髄損傷のため救急搬送先の病院で死亡した。	30202	1	1～9
2012	7	14 ～ 15	2階階段室付近において、間柱の設置作業中、開口部（幅4.4m、奥行き0.8m）から約4m下のコンクリート上に墜落した。	30202	1	1～9
2012	9	11 ～ 12	既設建築物に簡易リフトを設置する工事において、昇降路の鉄骨等の組立が終了し、設置した鉄骨と床面のわずかな隙間をコンクリートで埋めるため、鉄板（幅約50mmの長尺物）を溶接により取り付けていたところ、2階開口部付近（作業床の端）において、溶接の補助者として鉄板の端を押さえていた被災者は、誤って約5m下のコンクリート上に墜落した。	30309	1	1～9
2012	2	10 ～ 11	新築工事現場（地下1階、地上2階）において、地下1階で作業を行うため、1階開口部に設置された移動はしごから地下に降りようとしたところ、誤って約3m下の地下1階床まで転落した。	30201	1	1～9
2012	7	11 ～ 12	火災報知器点検の立会作業中、この立会の作業の引継を受けていた被災者は、地上階に設けられているフェンス扉を開け、その先にある開口部から、自家発電室の床面まで約14m墜落し、死亡した。	170209	1	10～ 29
2012	8	9 ～ 10	ビル解体工事において、被災者は躯体塔屋解体後の屋上床（8F）にて、エレベーターシャフトの開口（約1m×約1m）から、解体ガラを投下する作業に従事していたところ、当該開口から約25m下の解体ガラ上（1階床下レベル）へ墜落し、即死した。	30209	1	1～9
2012	2	13 ～ 14	清掃工場屋上にベンチレーターを設置する工事において、ベンチレーター内部の塗装をするため内部に足を踏み入れたところバランスを崩し、ベンチレーター内部の開口部から約14m下にある建物4階箇所へ墜	30201	1	1～9

			落した。			
2012	9	12 ～ 13	被災者はS造建築物の解体作業現場において、作業準備中、躯体2階スラブの階段開口部から転落した。	30309	1	10～ 29
2012	4	10 ～ 11	被災者は工場内に設置されたテーブルリフターを使用し、製品を2階から1階に降ろす作業を行っていたところ、搬器が1階に下りていて開口部の状態になっていた2階搬入口（高さ約4m）から1階搬器上に墜落した。	10109	1	1～9
2012	7	16 ～ 17	パルパーと呼ばれる古紙再生設備上（高さ：約9m）のコンベアの保全点検作業中、パルパー上の点検口（幅：約1m）からパルパー内に墜落した。なお、通常保全点検では点検口の蓋を開けて作業することはない。	10601	1	50～ 99
2012	7	9 ～ 10	浄化設備の汚泥槽のくみ取り作業中、被災者は何かの理由で、当該汚泥槽内部に転落し、死亡した。	150102	1	10～ 29
2012	7	13 ～ 14	家屋の新築工事現場において、2階部分の床板を張っていたところ、誤って高さ約4mの開口部から土間床に墜落した。	30202	1	1～9
2012	6	15 ～ 16	被災者はPC橋のボックス桁内において、清掃後の塩分濃度測定のため、桁から橋脚の検査路への入退場に使用する開口部付近で作業していたところ、急に意識を失い開口部に墜落し、。開口部から約3m下にある橋脚検査路（鋼製）に頭を強く打ち付け、頭蓋骨骨折等により死亡した。なお、通常、開口部は、スライド式の鋼製蓋で覆われているが、被災時は蓋が開いていた。	30105	1	1～9
2012	10	1 ～	高所作業車を使って鉄骨の組み立て作業中、災害発生現場にあった開口部養生蓋に付けられていた単管パイプが、高所作業車の停車位置と重なり、作業の障害となっていたため、当該高所作業車操作者は開口部養生蓋をずらして作業を行っていた。被災者は当該高所作業車の操	30101	1	30～ 49

		2	作者に工具を借りるため近づいたところ、開口部より約9m墜落し死亡した。			
2011	5	17 ～ 18	地上6階、地下1階のRC造校舎の建築現場において、被災者は、地下1階スラブ打設用のデッキスラブ（金属製の型枠）の設置作業を行った後の片付を行っていた。17時50分頃、被災者が地下1階のデッキスラブの開口部（1.2m×2m）からパイプサポートを下に降ろしていたところ、高さ約2.8m下のコンクリート床に墜落した（スラブデッキの下は雨水の侵入防止等のため約3m掘削しコンクリートが打設されている）。	30201	1	1～9
2011	1	9 ～ 10	建築中のもやし工場建屋において、1階育成室の天井裏にて、ダクト配管作業を行う予定であったが、同作業場所に別途建築工事の請負業者が足場を組立てることになり、被災者（3次）と2次業者1名でダクト部材の片付けを行った際、被災者の姿が見えないため、捜していたところ、各育成室の間にある隙間に墜落している被災者を別業者が発見した。被災者は、頭部を強打しており、10日後に死亡した。	30309	1	10～ 29
2011	6	10 ～ 11	木造家屋新築工事において2階床で作業中、開口部から誤って3メートル下の1階床に転落した。	30202	1	1～9
2011	8	8 ～ 7	木造住宅の新築工事中に現場において、建物2階で筋交いの取り付け作業を行っていたところ、階段設置予定箇所の開口部から328cm下のコンクリートの基礎に墜落した。筋交いは前日の作業で所定の長さに切った上で各所に借り置きしてあった。	30202	1	1～9
2011	9	11 ～ 12	鉄骨造4階建物解体作業に伴い、被災者が3階にてガラの集積・運搬作業に従事していたところ、1.9m×1.2mの開口部上に敷いてあった厚さ6mmのベニヤ板を踏み抜き約7.8m墜落した。その後、病院に搬送されたが、9月23日午後2時2分に亡くなったもの。	30209	1	1～9

2011	12	12 ～ 13	鉄骨造4階建物解体工事現場内の4階において、被災者がコンクリート等のガラ出し用の開口部（約1.3m×1.1m）付近でうまを設置しうまの踏み栈上で、鉄骨に吹き付けられている耐火被覆材をケレン棒にて除去していたところ、うまが倒れ、開口部から1階（高さ約9.3m）に墜落したものの。病院に搬送され入院していたが、12月26日AM1:30頃亡くなったもの。	30209	1	30～ 49
2011	3	15 ～ 16	同僚がギロチンシャー（500トン）のスクラッププレス機横の地下床面に頭部から血を流して倒れている被災者を発見した。地上から当該地下床面までは2m47cmで垂直の梯子が設置されているが、当該梯子設置箇所以外の開口部端には手すりが設置されていない。状況から当該開口部から墜落したと推定されるが、手すりが設置されていない開口部端にも血だまりが残っており、墜落直前、被災者が吐血した可能性がある。	11009	1	1～9
2011	11	14 ～ 15	9階建てビルの屋上ペントハウスに付随する広告塔改修工事において、広告塔の支柱となるH鋼サビ止め塗装を行う1次下請業者の作業員が、高さ約11メートルのコンクリート梁にて、サビ取り前処理作業を行っている際、屋上面に墜落したものの。	30309	1	1～9
2011	12	8 ～ 9	他の作業員が配管から砂を取り出すための調査をしていた所、後方から見ていた被災者が、別の作業のために設けられた荷物搬入用の開口部から、6メートル下のコンクリート床に墜落した。2日前より、地下ピットにおける基礎修繕工事のため、開口部を塞ぐ鉄製の蓋板と階段途中の踏み板4枚を外していた。開口部上部に電動ウィンチを設置し、資材及びコンクリートガラを搬出入していた。	150109	1	30～ 49
2011	12	15 ～ 16	スタッカークレーンの異常を知らせるブザーを聞いて第一発見者が、地下1階に行ったところ、当該クレーンの運転席下部に挟まれている被災者を発見したものの。	80401	1	100 ～ 299
			被災者は下水処理ポンプ場建屋内で配電盤の撤去作業を行っていた。床には開口部（950ミリ×1510ミリ）があり、作業中はパレッ			

2011	11	10 ～ 11	トを敷いて開口部を塞いでいたが、撤去作業が終了し、パレットを搬出しようと同僚と共に手で持ち上げ、横に移動しようとしたときに開口部から墜落した。3.74メートル下の地下ピット内に墜落し、真下の地下ピット内にも開口部があり、被災者はその下の汚水貯蔵槽に墜落した。	30302	1	10～ 29
2011	12	10 ～ 11	工場内の電話機設置及び電話線布設工事を行っていた。被災者は、同僚と2階天井裏で電話線の引き込み作業を行っていたところ、電話線を固定する材料が不足したので、取りに行こうとして、被災者の後ろの開口部（点検口70cm四方）から3m下のコンクリート床に墜落した。病院へ搬送されたが、12月25日に死亡した。	30301	1	1～9
2011	3	12 ～ 13	照明設備工事において、工場内の照明設備の安定器の確認を行うため高さ約7mのデッキを移動中、デッキ中央部にある開口部（直径約2m）から床に墜落し死亡したもの。	30301	1	1～9
2011	5	9 ～ 10	震災復旧工事の班長として作業場所の巡視中、津波によって蓋がずれていた開口部から、約6m下の地下ピットに墜落した。（推定）	30201	1	50～ 99
2010	12	1 ～ 2	災害発生当日、酸洗い作業場に設置されたテルハに走行オーバータイムのエラーが発生したため、酸洗い作業場4階で集電子を交換し自動運転を再開した。その直後、テルハのレールの間の開口部（1.4m）を渡ろうとした際に、誤って約5m下のボンデ槽（内容物：リン酸亜鉛溶液、85℃）に墜落した。	11009	1	50～ 99
2010	12	10 ～ 11	被災者は、食品会社の倉庫2階において、床に置かれたフォークリフト専用のパレットに出荷予定の商品を載せる作業を行っていたところ、4.95m下の1階コンクリート床に墜落した。普段は、荷物用エレベーターで荷降ろしを行っていたが、数日前に荷物用エレベーターが故障したため、災害発生当日は2階の手摺（可動式）の一部を開いた状態でフォークリフトによる荷降ろしを行っていた。	170209	1	10～ 29
			被災者を含む作業員2名で、昨晚から早朝にかけて降った大雨によ			

2010	12	8 ～ 9	り、地下の駐車場に雨水が溜まっていたため、地下ピットのマンホールを開き、地下ピットに雨水を流す作業を行っていたところ、被災者がマンホールから地下ピットに墜落した。墜落防止措置を講じていなかった。	150101	1	1001 ～ 9999
2010	12	14 ～ 15	艀装船セカンドデッキ部に数カ所あるハッチの周囲に仮設していた手摺りを以前に溶断撤去していた個所において、被災者はグラインダーによりハッチの仮設手すりを取り除いた部分の研磨仕上げを行うため、セカンドデッキにてグラインダーを探していたところ、1カ所開口部（約15.3m×3.4m）となっていて手すりなどがなかったハッチから約7.4m下のホールドに墜落した。	11501	1	10～ 29
2010	10	16 ～ 17	清掃工場内の定期補修工事において、下請作業員が2階部分に設けられていた物品揚卸用の開口部（約1m四方）から、4m下の1階のコンクリートの床に墜落し、死亡した。事故発生時、ウインチを使用し部品を4階に荷揚げする作業を行っており、そのため開口部の覆いが取り外されていた。なお、立入禁止等の表示は行われていなかった。事前に作業打合せがあったものの、被災者は開口部の覆いが取り外されていたことを失念していたとみられる。	30302	1	10～ 29
2010	9	16 ～ 17	被災者は、サッカー場の夜間照明増設工事現場において、照明塔に設置された高さ約17mの作業床において照明の増設作業を行っていたところ、作業床に設置されたタラップの開口部（防止措置なし）から墜落したものである。被災者は病院に搬送されたが、死亡が確認された。	30301	1	10～ 29
2010	3	16 ～ 17	4階建てマンション外壁塗装工事を行う現場において、マンション建屋内の吹き抜け部分の内部足場の組立てを行っていたところ、高さ13mの吹き抜け最上部であるマンション屋根上より1階床面に墜落した。なお、災害発生時マンション屋根上に被災者以外の労働者はいたが、直接状況を目撃した者はいない。	30201	1	1～9
			排水機場内の水路の上部にあたる開口部の蓋（縞鋼板、長さ2.1			

2010	3	10 ～ 11	m、幅0.95m、重さ約100kg)を塗り替えるため、被災者は他の作業者と2人で開口部の両側から持ち上げ、少しずつ引きずりながら運搬していたところ、バランスを崩して約7.5m下の水路に墜落し、腹部や背中を負傷してショック死した。安全帯が取り付けられていなかった。	30209	1	1～9
2010	2	11 ～ 12	建物7階仮設エレベーター開口部で、仮設エレベーターのジャバラゲート取替作業中、被災者がジャバラゲート取付用単管パイプのクランプを取り外していた際、バランスを崩し、7階床から3階床レベルに停止中の仮設エレベーター屋根部に墜落した。安全帯を装着していたが使用していなかった。	30201	1	1～9
2010	1	10 ～ 11	被災者は市役所内におけるゴミ収集等の清掃業務を行っているもの。 1階車庫内の自動車修理用ピット(幅80cm(内側130cm)、奥行552cm、深さ150cm)内でうつぶせに倒れ、心肺停止状態となった被災者が発見され、救急車により搬送されるも病院にて死亡が確認された。清掃作業中に足を踏み外してピットに墜落した際、ピットの縁部分に胸を強打したとみられる。	150101	1	1～9
2009	3	15 ～ 16	火力発電所内での煙道作業で休憩後、煙道内清掃作業の準備に取り掛かろうとしたところ、被災者が行方不明であった。煙道と煙突の取合部から高さ10m下の煙突底部をのぞいたところ被災者はうつぶせに倒れていた。	30209	1	1～9
2009	2	15 ～ 16	被災者は、高炉改修工事において地上から高さ86mの高炉上にある排ガスダクト内部(直径3.3m)にて作業床の設置作業中、開口部(1.5m×0.67m)から69m下の高炉底部に墜落した。	30209	1	30～ 49
2009	9	13 ～ 14	艦艇の燃料タンク(5m×5m×8m)内の清掃作業のため、燃料タンク内に入り準備作業を同僚と2人で行っていたところ、タンク壁に設けられた犬走り(幅2、3m)の開口部(直径1.5m)から4m下まで墜落した。	11501	1	10～ 29
		10				

2009	8	～ 11	船の修繕工事中、配管バルブを搬入していたところ、開口部より約3.7m下に墜落した。	30302	1	30～ 49
2009	6	～ 15	中元シーズンのため休日出勤し、大倉庫の高さ4mほどの中2階にて商品を箱詰めしていたところ、10箱から20箱とともに墜落して死亡した。災害発生を発見したのは翌日の午前10時頃に出勤した者であった。	80209	1	30～ 49
2009	12	～ 12	被災者は、既存マンションに隣接するコンクリート擁壁の壁面に生えた苔を取り除く作業を行なおうとしていたところ、マンション躯体と擁壁との間に設けられているコンクリート屋根の開口部（3m×0.8m）から、3.51m下の駐車場床面に転落した。	80409	1	50～ 99
2009	7	～ 9	建設中のコンクリート製調整槽（20m×24m×7m）上部の開口部（1.5m×2m）に雨避けの覆い（木製、約70kg）を設けていた。作業開始直後、この覆いを2人で取外そうとしたところ被災者が開口部から墜落した。	30199	1	1～9
2009	9	～ 10	工場建屋内に設置されている大豆用サイロの解体作業中、発じん防止のための散水用に設けられていた開口部からサイロ上面作業床にゴミを落とすため、開口部に覆いとして被せてあったコンパネ（縦90cm、横180cm、厚さ1.5cm）を持ち上げようとして、開口部（縦80cm、横85cm）から、約7m下のコンクリート床に墜落した。	30302	1	1～9
2009	1	～ 11	6階建てマンションの3階に所在する事業場の作業者が洗濯物を干すためにベランダに出たところ、避難用ハッチ（55cm角）が開いていたために、約3.4m下の2階ベランダに墜落した。避難用ハッチは、当日5階で作業をしていた塗装工事業者が作業者の昇降に使用した後、開けたままにしていた。	130101	1	1～9
2009	4	～	下水処理場内の汚泥処理施設において、ベルト汚泥濃縮機の配管に取り付けられたストレーナのスクリーン（流体中の異物やゴミをろ過する円筒状の部品）の故障警報が鳴ったため、その清掃・洗浄作業を加	170209	1	50～ 99

		11	圧浮上式濃縮タンク（幅4.5m×長さ19.3m×有効側深4.5m）傍で行っていたところ、誤ってタンク内に転落した。			
2009	2	11 ～ 12	被災者他2人は、安全衛生委員会の安全衛生自主パトロールを実施した。当該パトロールの目的は、消火器設置状況の確認であった。被災者は、6階スタックークレーンラックエリア内の消火器設置状況を確認するため、同エリア内に入ったところ、スタックークレーン昇降部分（ピット部分）から約19m下の2階スタックークレーンレール部分に墜落した。	10803	1	300 ～ 499
2009	10	14 ～ 15	下水処理施設増築工事において、深さ約5mの汚水沈殿槽築造のための側壁型枠組立作業中、被災者は既設構築物の端部梁上（広さ121cm×94cm）にて配下作業員に対する作業指示等行っていた時、同所より増築工事側の沈殿槽内へ約5m墜落した。	30110	1	1～9
2009	1	13 ～ 14	被災者は原毛（羽毛布団に詰める羽毛）を詰めたナイロン袋を、リフトで1階から2階に搬送する作業を行っていた。2階の積卸口の扉を開けると、リフト昇降路内壁と搬器の間に袋がはさまっており取り出せなくなっていた。このため、搬器を上下させて袋を取り出せるようにしていた際に、リフトの扉を開けて昇降路をのぞき込んだところ、バランスを崩してリフト扉から勢いよく前転した状態で搬器の天井に墜落した。	80109	1	10～ 29
2009	12	19 ～ 20	被災者は倉庫2階において荷を収納する場所の指示を行っていた。そして被災者が荷の取込口から1階にいるフォークリフト運転者に作業指示を行っていた際、その荷の取込口から約6.3m下に墜落した。	50202	1	10～ 29
2009	7	7 ～ 8	木造2階建て店舗の改修工事において、外部に仮設で設置した階段から2階に上がった被災者が、1階から2階へ上がる階段を撤去した後に生じた開口部（1.1m×2.5m）から、約3m下の1階に墜落した。開口部の長手方向の一方は壁で、他方は資材落下防止のために高さ90cmのベニヤ板が設置されていたが、短手方向は墜落防止措置がなかった。	30202	1	10～ 29
			養豚場の汚水処理槽内部に設置された攪拌装置（バッキレーター）の			

2009	12	22 ～ 23	整備のため、被災者が1人で汚水処理槽の蓋を外し、車両積載形トラッククレーンでバッキレーターを槽外に取り出し、整備作業を行っていたところ、蓋を外した槽の開口部に転落し、槽内の空気を吸い即死した。	30302	1	1～9
2009	6	16 ～ 17	工場新築工事現場において、1階天井内配管工事の作業中、休憩を終えて作業場所へ戻る際に開口部から3.8m下に墜落した。	30209	1	1～9
2009	4	16 ～ 17	被災者は2階の開口部から、木片を1階のトラックの荷台に落とし入れる作業を行うため、開口部から階下をのぞいたところ、仮設の手すりが外れ、高さ3.8mから墜落した。なお、外れた手すりは同僚が仮置きしたもので、固定されていなかった。また、被災者は保護帽を着用していなかった。	30202	1	1～9
2008	4	15 ～ 16	工場構内で被災者は、同僚二名とベルトコンベヤー集合架台の清掃作業に従事していた。その際、シャトルコンベヤーの稼動範囲内に立ち入り、梁上を移動していたところ、開口部から6.4m下のコンクリート床面に墜落した。	11001	1	100 ～ 299
2008	5	16 ～ 17	製紙工場内の古紙パルプ製造のための建屋において、3階の資材搬入口でクレーンを用いて鋼製四角形状のふたをつり荷にする作業中、ふたの位置調整作業を行っていた被災者が、高さ8.04mの資材搬入口の開口部から2階床面に墜落して被災した。	11409	1	30～ 49
2008	4	10 ～ 11	被災者は、4階にあるダクトスペースのALC板建て込みのための準備作業中、開口部を階下の天井から打ち付けてあったグラスウール製吸音板を踏みぬき、約13m下の1階土間に墜落した。	30201	1	10～ 29
2008	11	13 ～ 14	中2階でパネルに紙を糊づけする作業中に開口部（高さ約3m）から墜落した。	170209	1	1～9
		8	木造2階建の個人住宅の新築工事現場において、被災者は、2階の根太に床板を張る作業を行っていた。被災者は、床板材を取るため、2階の			

2008	5	～	9	梁の上を移動していたところ、3.5m下の1階コンクリート床面に墜落した。作業場所には防網や親綱等がなく、被災者は、ヘルメットを着用していたが、安全帯を身につけていなかった。	30202	1	1～9
2008	8	～	9	被災者は地下タンク改造工事の作業員として職長とライトバンに同乗して現場の駐車場に到着後、現場の集合場所に徒歩で向かう途中で忘れ物に気付いてライトバンに戻った。その後、職長らが被災者の到着をしばらく待ったが、現れなかったため工場内を捜索したところ、地下タンク改造工事現場の、深さ3.6mのピット内で倒れているのを発見した。	30302	1	1～9
2008	2	～	9	製紙工場の既存倉庫を工場に改装する工事中、当該既存倉庫2階床の土間の塗装作業をする際、当該土間のコンベヤーダクトが通る穴（開口部70cm×380cm）を塞いでいた木製の蓋（重量約50kg）を被災者と他の作業員1人の2人で持ち上げたところ、被災者が当該開口部から約7.5m下の1階床上に墜落した。	30201	1	1～9
2008	5	～	9	トラックのタイヤの交換を行うため、車庫兼倉庫の2階に上がりタイヤを探していたところ、厚さ9mmのコンパネ4枚で覆われた長さ3m幅1.6mの荷卸口から合板2枚とともに1階に墜落した。高さは5.7mであり車庫に止めてあったトラックに墜落し、その後地面に墜落した。	40301	1	30～ 49
2008	11	～	15	スキー場のリフト山頂駅において、搬器（座席）の取り付け調整作業中に搬器搬出用ハッチから6.23m下の搬器収納庫床面に墜落して死亡した。	40101	1	30～ 49
2008	5	～	10	被災者は、海外にある当該事業場が設置したLNG装置の運転調整のために同所へ出張して装置貯槽に設けられたプラットホームでバルブのチェックをしていたところ、別の作業で取り外されていたグレーチングの開口部から2.84m下のコンクリート床に墜落した。	170209	1	1000 ～ 9999
2008	5	～	13	2階建工場の2階荷降ろし口（三方が柵で囲われ、荷降ろし口が観音開き状の扉となっている）から、天井クレーンを使用してレンタル機材を	80409	1	10～

		14	降ろしている際、当該荷降ろし口から1階床（高さ5.9m）につり荷と共に墜落した。			29
2008	10	16 ～ 17	被災者は、翌日、翌々日に控えた中学校の記念式典及び文化祭の為の各種準備、清掃作業に従事していた。1階正面玄関西側のガラス窓清掃のために、高さ1mの手すりを乗り越えて地下ドライエリア（高さ5.75m）の上方に張られた飛来落下防止用のネット上に降り立ったところ、ネットを固定していたピンの一つが外れて地下ドライエリアまで墜落して死亡した。	120109	1	30～ 49
2008	9	16 ～ 17	SRC造8階建てのビルの解体工事において、8階床スラブの解体等の作業中に圧碎機を装着したドラグ・ショベルでコンクリートガラの小割り作業をしていたオペレーターが、当該ドラグ・ショベルから降りた時、コンクリートガラ等の投下用開口部から約26m下の1階床まで墜落した。	30209	1	1～9
2008	9	14 ～ 15	立体駐車場建設にあたり、立体駐車場機械室の点検通路の取り付け作業で、被災者が通路の資材であるアングルを各取り付け場所まで運んでいたところ、別の業者が機械室の壁材であるALC板の荷揚げ用に開けておいた開口部から墜落し死亡した。また墜落時に持っていたアングルが落下してALC板の荷揚げを行っていた作業者に激突して負傷した。	30201	1	30～ 49
2008	12	15 ～ 16	9階建て建築物（ビジネスホテル）の解体工事で建築物内部の通路に設けられていて、9階から1階まで通じている開口部（約2m×1.3m）の7階から9階のいずれかの階から墜落して死亡した。	30201	1	1～9
2008	10	15 ～ 16	住宅新築工事現場において、外壁に断熱材を取り付ける作業を行っていた作業員2名が、建物内での物音に気付いて建物内へ向かったところ、1階土間上に倒れている被災者を発見した。被災者は2階床上で木材加工作業中に開口部から墜落した。	30202	1	1～9
2008	11	16	工事現場から戻り、事業所の倉庫内で工事現場で使用した道具の片付けと倉庫内の道具の整理を行っていたところ、二階で作業していた被災者が90cm×181cm開口部から約2.3m下のコンクリート床に墜落し	30209	1	10～

		17	た。1階で片付け作業をしていた上司が後ろで音がしたので振り向いたところ被災者が倒れていた。			29
2008	9	9 ～ 10	鉄骨造2階建の選別場兼倉庫内の2階倉庫で、トマト出荷用の段ボール箱を組立作業中、積み上げた段ボール箱を移動させた際に、荷揚げ用開口部分（高さ3.8m）から墜落した。	60101	1	1～9
2007	6	16 ～ 17	鉄骨3階建て新築工事現場において、被災者が3階床部のデッキプレート敷設作業をしていたところ、開口部より7.45m下の地面に墜落した。	30201	1	1～9
2007	11	8 ～ 9	工場屋根の修繕工事において、被災者は、既存のスレート屋根上に鋼板屋根を設置するために、屋根上（高さ4m）で、鋼板屋根設置に支障がある部分のスレートを切断する作業を行っていたところ、切断によりできた開口部（76×343cm）から4m下の工場コンクリート床面に墜落した。	30201	1	1～9
2007	10	17 ～ 18	農業集落排水処理施設工事の現場において、現場の後片付け中、深さ5mの浄化槽の開口部から墜落した。	30302	1	10～ 29
2007	2	17 ～ 18	被災者は、浸水被害防止用の調整池の建設工事現場において、型枠の解体作業を行っていたが、当日の作業終了後、被災者が行方不明になっていた。他の作業者たちが、現場内を捜索したところ、作業場所と通路でつながった別工区において、開口部から6m下のコンクリートの床上に意識不明で倒れているのが発見された。	30107	1	10～ 29
2007	8	9 ～ 10	立体駐車場用ピット（深さ2m49cm）に、枠組足場を組むために、部材を運搬していたところ、ピット内に転落した。	30201	1	10～ 29
2007	11	17 ～	被災者は浄化センターにおいて単独で保守点検作業を行っていたところ、エアリフトポンプ槽に可動式ポンプの据え付け作業中又は可動式ポンプによる排水作業終了の後、約6m下の同槽底部に墜落した。同	150109	1	10～

		18	槽には縦128×横207.5cmの開口部を4枚の板にて蓋がしてあったが、そのうち縦128×51.5cmの蓋一枚が上記ポンプ据付用に外されていた。			29
2007	5	16 ～ 17	機械設備設置工事で、薬品を自動秤量する自動秤量器という機械の防水工事の施工を担当していた被災者が一人で施工箇所に向かっていた。施工箇所は建屋内で複数あり、もう一人の同僚は別の場所で同じ防水工事をしていた。夕方になっても同僚や元請らと連絡がとれなくなったため、工場内を捜索したところ、自動秤量器の真下の2階搬送通路で倒れている被災者が発見された。	30203	1	50～ 99
2007	3	9 ～ 10	無線基地の鉄塔上部（高さ約20m）の作業床上において、下請作業者2名とともに、新設無線機器の配線方法について打ち合わせを行っていた被災者が、昇降用の開口部（60×80cm）から落下し、約15.8m下の配線ケーブル用のラックに墜落して、さらに2.7m下の地面に落下した。	30203	1	1～9
2007	3	8 ～ 9	マンション建設工事現場の立体駐車場用コンクリート製ピット横にある通路上で朝礼を行っていた際に、ピットの状況を確認しようとピット横のA型バリケードをつかみピット内を覗き込んだ際、バリケードと共に深さ約3.6mのピット内に墜落した。	30201	1	10～ 29
2007	9	17 ～ 18	共同溝設置工事が完成し、発進立坑内の地下11階から地下10階、地下9階の順に昇降設備と開口部養生柵の撤去作業を行っていた。被災者は、当日予定の撤去作業を終了し、2連アルミ製移動はしごを使用して、地下10階から地下9階へ袋に入れた投光器を持って上ったところ、地下9階上り口脇のスラブ開口部より立坑最下段の地下11階床まで10.45m墜落した。	30102	1	10～ 29
2007	3	9 ～ 10	鉄筋コンクリート造9階建てマンション新築工事現場において、外部足場の外側に設置した建設用リフト（積載荷重240kg）の搬器にユニットバス等を載せ8階の荷取りステージで荷卸しようとしたところ、搬器とステージとの開口部（幅約1820mm、奥行き約40	30201	1	1～9

			0 mm) から 2 1 m 下の 1 階地面に墜落した。			
2007	11	11 ～ 12	解体によって生じたガラを 1 階スラブに設けられた開口部から重機を用いて地下へ投下していた。被災者は開口部から離れた箇所でガラの中の鉄筋を取り除く作業を担当していたが、開口部付近に近寄り、開口部から約 3. 5 m 墜落して、死亡した。被災者が作業していた開口部付近には親綱が設置されていたが、被災者は安全帯を着用していなかった。	30209	1	1～9
2007	9	6 ～ 7	被災者は、単独で、各種飲料食料を出荷するための空のプラスチック製のかご（通称バットと呼ぶ）の整理整頓作業中、穴の直径 9 0 c m、深さ約 8 m の雨水集水弁に弁の蓋とともに落下した。雨水集水弁の穴の上には、コンクリート製の蓋が常時置かれている。この蓋は同じ大きさをした 2 つの半月状に分離されている。	50101	1	10～ 29
2007	3	7 ～ 8	作業開始時刻前に、地下道工事現場において、被災者が地下約 6. 5 m 下の掘削面に倒れているところを同僚により発見された。なお、地上に設置されていた手すり（単管パイプ）が被災者近くに落下した状態で発見された。	30199	1	10～ 29
2007	5	15 ～ 16	ビル内の空調設備の移設工事の依頼があり、見積書作成のため、設備関係の確認及び配電盤の位置確認を行っていた。配電盤位置確認のため、6 階フロアに設置されている車両搬送用エレベーター点検用扉から内部に入り、携帯電話の明かりで配電盤の位置を探そうとしたところ、誤ってエレベーター開口部から高さ 1 9. 3 m 下に墜落した。	30302	1	300 ～ 499
2007	3	11 ～ 12	当該事業場工場内において、排水処理施設内備品の解体作業で作業終了後、施設内 2 階の壁面にある窓を閉めようとした際、2 階床面の開口部（脱水機を解体作業で取り外した後の穴）から 3 m 下のコンクリート床面に墜落した。	150102	1	30～ 49
2006	12	～	鉄筋コンクリート造 9 階建てビルの解体工事現場において、圧碎機を使用して解体を行っていた。前日、9 階部分北側の外壁を切り離し、エレベーターシャフト開口部を塞ぐ形で倒した。当日、被災者がその	30209	1	1～9

		15	上を通行した際、倒した壁の中心部に取り付けられていた換気口のサッシ枠ごとエレベーターシャフト1階まで約2.5m墜落した。			
2006	12	10 ～ 11	被災者が、製鐵所内工場建屋の屋根断熱材処理工事（石綿除去）中に、屋根上の開口部から約1.7m墜落した。	30209	1	1～9
2006	11	15 ～ 16	4階建てのビルの解体工事において、屋上の塔屋の解体作業中、撤去したアルミドア（180.3cm×80.3cm）を被災者が屋上の開口部（1.05m×1.23m。屋上から1階まで吹き抜け）から投棄したとき、アルミドアと共に開口部から約1.2メートル下の1階に墜落した。	30209	1	1～9
2006	11	9 ～ 10	靴製造の事業場において、靴加工用機械を3階から4階に移設するため、3階の作業室内からベランダまで仮設の作業床上をハンドリフトを使用して機械を移動させていたところ、開口部となる仮設の作業床の端部から約7.5メートル下の地上のアスファルト床に墜落した。	30302	1	1～9
2006	11	1 ～ 2	食品工場の屋外の汚水浄化施設において、発生した浄化槽の泡を、ひしゃくを使って取り除く作業を行っていた被災者が、翌日の朝に浄化槽のうちの1つ（縦横5.5メートル×3.3メートル、深さ6.5メートル）の廃液（水深5m）にうつぶせで浮いているのを発見された。	10109	10	100 ～ 299
2006	10	13 ～ 14	地下受水槽の清掃作業のため、1階床部にある既設地下へ行くための昇降口のフタを開けて入り、地下で作業を行っていたところ、隣の部屋で造作作業を行う予定の被災者がフタを開けたままの箇所（590mm×590mm）から墜落した（高さ約5m）。地下受水槽清掃業者と被災者は別の業者の所属である。	30201	1	1～9
2006	11	14 ～ 15	工事中のダクト地下3階底にうつ伏せで倒れ死亡している被災者が発見された。	30201	1	30～ 49
			10階建てマンションの屋上で、ペントハウスの壁タイルの補修をし			

2006	11	15 ～ 16	ていた作業員のところに、別棟で作業をしていた被災者が来て、話をしていた時に、被災者が屋上の吹き抜け開口部から後ろ向きに倒れ、墜落した。	30201	1	1～9
2006	8	14 ～ 15	倉庫の入口シャッター取替え作業において、シャッターを溶断するため、倉庫2階に上がったところ、2階床のブルーシート（515×304cm）で覆われた開口部（168×101cm）から274cm下の1階コンクリート床に墜落した。	30302	1	10～ 29
2006	9	0 ～ 1	公共下水道工事現場において、立坑（深さ21.5m）の底部に置いてあったはしご（長さ約3.65m、重量約8kg）をロープで結んで上げる作業中、はしごを持ち上げ後退したとき、予備水中ポンプの配水ホースを引出し配水するため、立坑上部の覆工板を外してあった開口部（3×1m、墜落防止措置等なし）から、墜落した。	30110	1	1～9
2006	7	10 ～ 11	鉄骨建方の際に使用していた墜落防止用ネットの撤去作業を行ない、被災者が同僚らと2人1組で、撤去したネット（10m×10mを俵状に畳んだ物、重さ約45kg）を2階から1階床に投下する作業を行っていた際、投下の瞬間にネットが被災者の安全帯に引っ掛かり、ネットに引き込まれる様な形で、約5.5m下のコンクリートスラブ上に墜落した。	30201	1	1～9
2006	6	8 ～ 9	マンション新築工事現場において、足場の外側に設けられた張り出しステージの解体作業中、ステージ上から1階に墜落した。（墜落高さ12.5m）	30201	1	10～ 29
2006	6	13 ～ 14	配送倉庫2階にある品物の発送のため、被災者が2階床面に設けられている開口部（大きさ2.8m×2.4m・1階床面からの高さ3.55m）の脇でパレット上に積み置き、その積み置きが終わり次第もう1人の作業者が1階にあるフォークリフトを使って降ろす予定であったが、被災者は同開口部から墜落した。	80209	1	1～9
		10	立体駐車場の鉄骨の建方等の工事において被災者が、建ち上がった鉄			300

2006	3	～ 11	骨の最上部（地上から高さ約70m）に上がったとき、ウインチのワイヤロープを通すための開口部（58cm×141cm）から地上まで墜落した。	30201	1	～ 499
2006	5	～ 10	RC造2階建の新築工事現場において、2階のこう配屋根に防水シートを張る作業中、明り取り用天窓の開口部より防水シートを踏み抜いて墜落した。	30201	1	10～ 29
2006	4	～ 12	新しく赴任した2人で、施設内の状況を把握するための見回りの一環として地下の柔道用床収納室に入り、奥側へ進んでいたとき、柔道用床収納用の油圧ジャッキ等が収納されている深さ約2.6mのピット内に転落し被災した。	140309	1	1～9
2006	3	～ 14	4階建ビル解体工事現場内の3階の部屋で、脚立に乗って壁面に取り付けであった木製カーテンボックスを手で取外す作業中、カーテンボックスの北端で溝にはめ込まれて固定された部分からカーテンボックスが抜けた反動で、バランスを崩し脚立ごと転倒。廃棄物を投下するために床に設けられていた1.75m四方の開口部から約7.3m下のコンクリート床に墜落した。	30209	1	10～ 29
2006	2	～ 16	コンクリート造ビル解体工事現場で、被災者は運転してきたトラックのキーを1階で窓ガラスの解体をしていた労働者に手渡そうとして、開口部（コンクリート屑を落とすために設けたもの）から足を滑らせ、約4メートル下の地下1階に墜落した。	30209	1	1～9
2006	2	～ 10	空調のための電気（結線）工事において、システム天井（つり天井）上で2人一組で結線作業を行っていたが、空調の配線が鉄骨のチャンネル内にあるため、上を向いて配線を探していたところ、開口部（150×150cmの7スパン）から、約6.4m墜落して死亡した。	30301	1	10～ 29
2006	1	～ 9	鉄骨平屋建の鶏糞乾燥場において、上屋根からの落雪により下屋根が破損したため、作業員4名で下屋根に上がり、作業開始前に取付けた親綱に安全帯を掛け、被災者は屋根下地となる野地板張り作業を行っていた。移動のため、安全帯を親綱から外した直後、バランスを崩	30201	1	1～9

		10	し、事前に切断され取り除かれていた下屋根の開口部（1. 8 m×0. 6 m）から、高さ8. 8 m下のコンクリート床面に墜落した。			
2006	1	16 ～ 17	4階建てビル解体作業において、3階床面にて作業をしていたところ、ビル床面に設けられた廃棄物を落下させていくための開口部より1階床面まで転落した。	30201	1	30～ 49
2005	6	9 ～ 10	屋根と樋の取替え工事中、屋根の上において腐蝕した古い母屋をガス溶断しようとしたところ、体勢を崩し、5m下のコンクリート地面に墜落した。	30106	1	1～9
2005	1	10 ～ 11	高さ3mの棚上で、フォークリフトのパレットに荷を積む作業中、床に墜落した。	80102	1	10～ 29
2005	11	11 ～ 12	新築工事現場において、2階の床合板を敷く作業中、床合板を敷き終わっていない開口部から墜落した。	30202	1	1～9
2005	4	8 ～ 9	センター内の設備の点検整備をしていたところ、分水枡内に転落した。	11603	1	10～ 29
2005	5	13 ～ 14	地下鉄の工事現場で、軌道ホームの天井部分に排気ダクトの据付けを行っている作業中、開口部から4.5m下に墜落した。	30103	1	10～ 29
2005	9	15 ～ 16	焼却炉ボイラ等の日常点検中に墜落した。	150103	1	100 ～ 299
2005	8	8 ～ 9	仮設電源用電工ドラムを機械搬入口から階下へ下ろすため、グレーチングをずらし、その下のゴミ除け金網を浮かせその隙間から電工ドラムを下ろそうとしていたとき、強度のないゴミ除け用の金網に足を乗せたため、金網がはずれて5m下に墜落した。	170209	1	100 ～ 299

2005	12	13 ～ 14	工場2階の抄紙機の作業準備中に、1階に墜落した。	10601	1	100 ～ 299
2005	1	9 ～ 10	材料置き場で材料の搬入を待っていた被災者が搬入口から2.8m下の床に墜落した。	10805	1	10～ 29
2005	10	9 ～ 10	ガス溶断用のホースを片付ける際、3階グレーチング敷き部分から11m下の1階へ墜落した。	30209	1	10～ 29
2005	6	14 ～ 15	外壁パネルの取付け作業中、積み重ねられている外壁パネルの最上部の1枚を取り付けやすいように向きを変えようとしたところ、後方にあるエレベーターピットの手すりの下方をすり抜け、9m下のエレベーターピット内に墜落した。	30201	1	1～9
2005	10	15 ～ 16	木造2階建住宅新築工事現場において、2階床を張っていたところ、開口部から3m下のコンクリート床面に墜落した。	30202	1	1～9
2005	10	11 ～ 12	建物解体工事において、7階で解体作業に従事していた重機オペレーターが資材上げ下ろし用開口部から14m墜落した。	30209	1	10～ 29
2005	10	15 ～ 16	建物の設備に関する事前調査中に設けられた開口部から5.7m墜落した。	11603	1	10～ 29
2005	10	14 ～ 15	既存建物内部の改修工事のうち、2階床の開口部の周囲をハツリ、開口面積を広げる作業を行っていたところ、開口部から6m下に墜落した。	30201	1	10～ 29
2005	1	11 ～	作業手順を検討中、高さ6mの作業床にあった開口部より地面に墜落した。	30302	1	1～9

		12				
2005	11	15 ～ 16	センター屋上の機械設備を保護するためのアルミルーバー設置作業中、被災者はバランスを崩し、アルミルーバー取付け箇所に設置していた作業床から後方にあったバルコニー及び室外機置き場の開口部へ5m墜落した。	30209	1	10～ 29
2004	4	10 ～ 11	電気炉解体現場において、電気炉建屋の3階でダクトに取り付けられたダンパー等の取り外し作業を行っているときに墜落した。	30209	1	10～ 29
2004	12	19 ～ 20	厚板工場内において、厚板の矯正を行う矯正機の調整工事中、前面ピンチロールにアイボルトを取り付けるため、テーブルロール減速機からスピンドルカバー上を通り、テーブルロール架台へ渡ろうとした際、梁にぶつかってバランスを崩し、スピンドルカバーと前面ピンチロールとの間にある開口部から3.7m下の基礎部に墜落した。	30302	1	300 ～ 499
2004	7	13 ～ 14	鉄骨コンクリート造2階建の2階床上において、鉄骨の溶断作業中、1辺約1.2mの正形状をした開口部から約3.3m下の1階コンクリート床面に墜落した。	30209	1	10～ 29
2004	1	11 ～ 12	倉庫2階で商品の仕分け作業において、荷揚げ用開口部脇のパレットに商品を積む作業中、転落防止用鎖の隙間から約2.8m下の1階へ墜落した。	80401	1	10～ 29
2004	1	14 ～ 15	深さ3.95mの下水道工事のたて坑でライナープレートの組立中、地上の別な場所で清掃作業をしていた被災者が立入禁止のために設けられていたカラーコーンを乗り越え、たて坑の開口部の中を覗き込んだところ、墜落した。	30110	1	1～9
2004	1	0 ～ 1	木造家屋新築工事現場にアルミサッシを納入しに来た被災者が、建屋2階の階段設置予定個所の開口部（0.9×0.6m）から3.5m下のコンクリート床に墜落した。	80209	1	1～9
		0	木造家屋新築工事現場にアルミサッシを納入しに来た建材販売店の労			

2004	1	1	働者が、建屋2階の階段設置予定個所の開口部（0.9m×0.6m）から3.5m下のコンクリート床に墜落した。	80209	1	1～9
2004	7	10 ～ 11	工事現場において、壁と床の間の隙間をモルタルで詰める作業中、2階開口部付近までモルタル用のホースを後ろ向きに後退しながら引っ張ってきたところ、何らかの原因で開口部を塞いでいたベニヤ板がずれて、その開口部から墜落した。	30201	1	1～9
2004	5	8 ～ 9	貨物用エレベーター（地上2階地下1階）の1階部分から地下1階床面まで約4m墜落して死亡した。	10409	1	10～ 29
2004	3	9 ～ 10	ポンプ場での異常通報装置の設置工事において、マンホール（開口部）から深さ約11mの雨水槽の底に転落した。	170209	1	1～9
2004	10	8 ～ 9	10階の住戸玄関前廊下の端部の開口部付近で脚立を使用して壁の吹付養生を行っていたが、その際にバランスを崩し墜落した。	30201	1	1～9
2004	9	9 ～ 10	ビル解体工事現場において、床を支持するためのパイプサポートを3階にウインチにて搬入中、3階開口部から墜落した。	30209	1	1～9
2004	4	9 ～ 10	ごみの焼却場施設で、被災者の姿が見えないため、全員で探し回ったところ、深さ7.5mのごみ投入ピットに被災者が仰向けで倒れているのが発見された。	150103	1	1～9
2004	3	9 ～ 10	深さ19.4mの取水槽底版からクレーンを使用して、解体した足場材料を搬出する作業の準備中、取水槽中床版の通路にある開口部から8.6m下に墜落した。	30302	1	300 ～
2004	10	3 ～ 4	配水管の敷設工事において機材の撤去をしていたところ、推進工用の深さ約6.5mの到達立坑に墜落した。	30110	1	1～9

2004	9	9 ～ 10	立坑築造及び管布設を行う工事において、6.5m鋼管を立坑へ移動式クレーンでつり下げ、開削管路内に横引きして仮置きする作業中、開削管路の覆工板開口部に掛けられたはしごで下りる際、はしごから約7.5m下の開削管路コンクリ床面に墜落した。	30110	1	10～ 29
2004	12	9 ～ 10	工場の床の新設工事中、既設の中2階から、新設の2階に上るか上部の様子をのぞこうかして、新設のH鋼に手を掛けたが、手はずれ、約2m下の中2階床に転落し、さらに、中2階床面の開口部(1.1m×1.6mの長方形)から、約5m下の1階床面に墜落した。	30203	1	10～ 29
2004	9	8 ～ 9	配水池耐震補強工事において、配水池内部で使用していたはしごを切断したところ貯水量監視室から搬出する前に切りくず飛散防止用のブルーシートを設置するため入口スラブに立ち、監視スペースのコンクリート壁へ足をかけようとしたところを、足を滑らせて約6m下のコンクリート床に墜落した。	30110	1	30～ 49
2004	12	18 ～ 19	発電所で、電機機器の調整作業中、発電機設置下の開口部(災害発生時、発電機はなく開口部が露出していた)から約8m下ののピット底部に転落した。	11409	1	300 ～ 499
2004	8	9 ～ 10	共同住宅3階の部屋の引越作業において、作業員2名が窓からセパレート式箆筒の上段(重量40kg)をつりロープを用いてつり下ろしていたところ、窓の外側に設置されていたアルミ製の手すりが外れ、7m下の地上に墜落した。	40301	1	30～ 49
2004	4	10 ～ 11	清掃工場解体工事において、ごみピット上部に位置する送風機室内で送風機等の溶断作業を行っていたとき、送風機ダクトを撤去した跡にできた床面開口部から22m下のごみピット底に墜落した。	170209	1	100 ～ 299
2004	10	8 ～ 9	コンプレッサー装置を2階の設置場所に上げる準備のため、2階の機械搬入用ハッチ(2階床上)を被災者他1名で開ける作業中、ハッチとともに6m下の1階コンクリート床上に墜落した。	30302	1	1～9
		8	機械設置用の架台の開口部の位置を変更する工事において、工事にとりかかろうと、それまで開口部を塞いでいた蓋を被災者を含め2名で取			

2004	9	9	り外し、これをフォークリフトに受け渡した後、ステージを降りようと階段に向かおうとした時に、当該開口部から墜落した。	170209	1	1～9
2004	8	13 ～ 14	工場新築工事現場内において、荷揚げ用に使用していたエレベーターの昇降路の2階開口部から約4m下の1階床面に転落した。	30201	1	10～ 29
2004	4	11 ～ 12	プラント建物内で部材を交換し、電動チェーンブロックで地上に降ろす作業中、2階開口部（約1.5m×1m）より約6m下のコンクリート床に部材、鉄板とともに墜落した。	10901	1	10～ 29
2004	6	17 ～ 18	木造2階建て住宅の2階部分の増改築工事現場において、建物2階内部の片付け作業を終了後、2階作業床から足場に移動しようとしたところ、建物と足場との隙間から高さ約5.5m下の地面に墜落した。	30202	1	1～9
2004	1	8 ～ 9	コンベヤの除雪作業中、コンベヤの上に乗る、上部に設置してあるモーターの調整を行っていたところ、コンベヤ先端と点検用通路の間の砂利投下口から約5m下の地面に墜落した。	20202	1	1～9
2004	9	10 ～ 11	デパートの開店前の店内のエレベーター起動作業の際、外部開放キー（強制的にエレベーターの扉を開ける道具）を用いて、1階エレベーターの外部から扉を開けた直後、エレベーターのピット内に墜落した。	170201	1	1～9
2004	5	11 ～ 12	一般住宅新築工事現場内において、建設物2階のユニットバス設置予定部分の開口部から1階床部に墜落した。	30202	1	30～ 49
2003	12	8 ～ 9	マンションの館内巡回を終え、管理室の戸を開けて入室したときに、床に設けられた点検口からピット床まで約4.3m墜落した。	150101	1	100 ～ 299
2003	11	14 ～	煙突塗装工事において、塗装終了後に道具、ゴミ等をホイストを使用して降ろすため、作業床となっていたグレーチングの一部を外して約80cm四方の開口部を作って荷を降ろしていたときに、開口部から約	30209	1	1～9

		15	14m下のコンクリート床に墜落した。			
2003	11	0 ～ 1	製紙工場の釜で原料の種を作るため、釜の投入口に古紙の入ったフレコンバックを投入していたときに、手すりのすき間からフレコンバックとともに釜に転落した。	10601	1	30～ 49
2003	10	15 ～ 16	建造中の貨物船（499t）の見回り作業を行っていたときに、デッキ上の開口部（6.3m×2.4m）から6.7m下のエンジンルーム床に墜落した。	11501	1	30～ 49
2003	6	16 ～ 17	一般廃棄物の最終処分場の浸出水処理施設建設工事において、地下脱窒槽内にろ過装置を据え付けるため、脱窒槽内にベース金具作業・配管等を降したのち地上に上がって脱窒槽の蓋を復旧しているときに、開口部から深さ5.3m下のコンクリート面に墜落した。	30302	1	1～9
2003	6	13 ～ 14	地上7階建のパチンコ店の新築工事で、6階床スラブのデッキプレート上にワイヤメッシュの敷き込み作業を行っていたときに、エレベーターシャフトの開口部より約20m下に墜落した。	30201	1	1～9
2003	4	14 ～ 15	TVアンテナ移設工事で、配線分配作業が終了したので配線を片付けるため、給水塔5階部分に設置した足場板の上を給水塔外部南側から北側へ移動しているときに、開口部より14.4m下の2階部分に墜落した。	30301	1	10～ 29
2003	4	17 ～ 18	新築工事現場の2階屋根スラブ上で玉掛け作業中に、屋根スラブの開口部を覆っていた断熱材を踏み抜いて1階コンクリート床に墜落した。	30209	1	10～ 29
2003	4	9 ～ 10	牛舎2階の飼料置場からクレーンを使用して飼料を1階へ運ぶ作業中に、2階床の開口部（2.6m×3.7m）から3m下の1階床に墜落した。	70101	1	1～9
2003	4	16 ～ 17	6階建RC造ビル解体工事において、当日の解体作業を終えて、後片付け等の作業を行っていたときに、高さ約15mの6階フロアの吹き抜けの開口部（2.1m×1.4m）から墜落した。	30201	1	50～ 99
			旅館に設置してある合併浄化槽の汚泥の汲み取り作業のため、バ			

2003	3	0 ～ 1	キュームカーの汲み取り用ホースを準備していたところ、浄化槽施設内に入るためのマンホールの蓋が既に開けてあったため、マンホールから合併浄化槽(深さ2.8m)に墜落した。	150103	1	1～9
2003	2	11 ～ 12	11階建マンション建築工事で、内装用資材であるボード(900mm×1800mm×50mm)を8階の各部屋へ搬入していたときに、8階エレベーターシャフトの開口部より約22m下の1階エレベーターピットへ墜落した。	30201	1	30～ 49
2003	1	15 ～ 16	簡易土止め支保工を設置した掘削溝から約1.2m離れた市道マンホールに下水本管を繋ぐため、軽量鋼矢板を打ち込み深さ約2m掘削した時点で一般車両通過のため作業を中断しているときに、市道マンホール付近を通過した者が掘削個所に墜落し、軽量鋼矢板の先端で腹部を強打した。	30110	1	30～ 49
2002	7	9 ～ 10	RC造4階建店舗の内外装改修工事において、廃材を運搬する空の一輪車を3階に持っていくため、階段を後ろ向きで一輪車を引っ張って登っていたときに、エレベーター設置のために階段近くの2階床に当日開けた開口部(1m四方)から1階に墜落した。	30209	1	1～9
2002	12	11 ～ 12	特別収集で搬入されたゴミをプラットホームからピット内へ投入作業中、3名の誘導者のち1名の姿が見えなくなったので探したところ、ピット内のゴミの中で発見した。	150103	1	10～ 29
2002	12	16 ～ 17	木造3階建の建築工事において、3階に合板床材を貼り付けるためベランダ部分の寸法を計測しているときに、3m下の2階のコンクリートスラブ上に墜落した。	30202	1	1～9
2002	12	10 ～ 11	地下2階の排水タンクのスラブ上で、配管サポート金具にFRPライニングによる耐食加工を行うための下見していて、3.95m下のタンク底に墜落した。	30302	1	1～9
2002	11	11 ～	6階建てホテルの解体工事中に、各階の床面に設けられた廃材投下用開口部(1.5m四方)の5階開口部から約13m下の1階床面の廃材の山(高	30209	1	30～ 49

		12	さ1.5m) の上に墜落した。			
2002	12	10 ～ 11	掘割内の切断済み柱列杭（モルタルH鋼杭）の荷揚げを行うため構台上の覆工板（1m×3m）を開けているときに、開口部（2×2m）より足を踏み外して11.5m下に墜落した。	30104	1	10～ 29
2002	12	15 ～ 16	地上10階建てホテルの新築工事において、建物屋上の広告塔（高さ約15m）設置に使用する足場（8段・高さ約14m）の組立作業で、広告塔鉄骨の最上部に設けられているステージ（幅1.5m）を歩行中に、昇降用タラップの開口部（縦85cm、横81cm）から建物屋上（約12m下）に墜落した。	30209	1	10～ 29
2002	11	12 ～ 13	鉄橋塗装工事用の足場を設置するため、電車運転終了後に同僚とともにトロッキに資材を積んで鉄橋の上り線のレール上を進んでいたときに、鉄橋中央付近で上り線と下り線のレールの間から約12m下の河原に墜落した。	30209	1	1～9
2002	12	9 ～ 10	同僚が手運搬をしてきた受水槽パネルの仕分け状況を確認するため1階の開口部養生用の蓋の上を歩行中に、蓋がずれたため地下1階コンクリート床へ墜落した。	30209	1	1～9
2002	10	15 ～ 16	8階傾斜屋根の防水シート貼り作業中、7階屋根の吹抜部分から1階床まで墜落した。	30209	1	1～9
2002	10	17 ～ 18	9階建てビル解体工事において、オペレーター2名、散水者2名の計4名でドラグショベル2台を用いて解体及び解体小割作業中、自分の作業を終えて作業場所から離れた者が17時を過ぎても姿が見えなかったため、全作業員で捜索したところ、解体ガラの荷卸開口部1階で倒れているのを発見した。	170209	1	10～ 29
2002	8	11 ～ 12	小学校校舎の外部窓清掃で、2階の窓を窓枠に足を掛け身を乗り出して清掃していて約5m下のコンクリート通路に墜落した。	150109	1	10～ 29

2002	8	14 ～ 15	浄化槽内にある高さ約7.5m足場上で、解体した部材を地上に上げる作業中に足場板と足場板の隙間から墜落した。	30110	1	1～9
2002	3	10 ～ 11	新築倉庫の垂直搬送機設置工事で、垂直搬送機出入口となる開口部から垂直搬送機の部材を各フロアに荷取りするため、開口部の単管手すりに安全帯のフックを掛けてシャフト内部に身を乗り出したところ、手すりが外れて19m下のピットに墜落した。	30201	1	1～9
2002	5	10 ～ 11	収集してきた家庭可燃ごみをごみ焼却場のごみピットに空ける作業で、ごみ収集車からごみを掻き落とす補助作業を行っていてピットの開口部から8m下のごみピットに墜落した。	150109	1	100 ～ 299
2002	5	9 ～ 10	管渠築造工事においてマンホール（立坑）の補修、清掃を行うための作業準備をしていたが、道具を忘れたので相方が自宅に道具を取りに行き現場に戻ってきたところ、姿が見当たらなかったため全工区内を探したところ、他発注の完了済み下水マンホールで死亡していた。	30110	1	1～9
2002	5	14 ～ 15	邸宅新築工事において、2階部分の床面コンクリートに接着剤の塗布作業中に高さ3.1mの開口部分より墜落した。	30202	1	1～9
2002	3	15 ～ 16	工事資材を1階から地下へ下ろす作業で、同僚と二人で1階床ハッチ（重さ67kg、133cm×88cm）を外すためにハッチを少し手前にひいたところ、ハッチが枠縁から脱落してハッチとともに5.5m下の地下1階コンクリート床上に墜落した。	30203	1	1～9
2002	1	17 ～ 18	焼却炉の減温塔を清掃するための足場を内部に組立中、開口部より墜落して2.3m下の補強用プレートに当たり、さらに2m下の足場上に墜落した。	30209	1	10～ 29
2002	2	1 ～ 2	地下鉄工事で掘削場所から排出された廃材を運搬等をする作業中、開口部下の掘削床部に転落した。	30103	1	30～ 49

2002	1	11 ～ 12	建造中の30万tタンカー船首部分のボースストア内で足場の解体撤去作業中、開口部より約24m下の船底部に墜落した。	11501	1	1～9
2001	12	13 ～ 14	免震構造の建物の建築工事で、元請の係員が昼食時間になっても戻らないので探したところ、1階床下の免震ピットのクリアランス(振動を吸収する隙間)の開口部から約11m下のエレベーターシャフトに墜落して倒れているのを発見した。	30201	1	10～ 29
2001	12	9 ～ 10	解体工事現場において、既存の杭を撤去した後に、撤去の状況を写真撮影後、次の場所へ移動中、杭穴(1.65m×3.05m、深さ3m)に転落し杭穴周辺の土砂が崩れ生き埋めとなり死亡した。	30209	1	10～ 29
2001	11	17 ～ 18	2階建木造の住宅新築工事において、2階押入の開口部付近で根太打ち作業中に開口部から転落した。	30202	1	1～9
2001	12	11 ～ 12	木造住宅建築工事において、屋根下地材(アスファルトルーフィング)の取付作業中に(屋根勾配31度)のところにある天窗を設置する予定の開口部(98.5cm×78.5cm)から約5m下の2階床に墜落した。	30202	1	1～9
2001	12	10 ～ 11	工場へ納品に行き数あるバス(荷の搬入口)の一つに接車したが納品先の構内員に別のバスに接車の変更を指示されたので正規の出入口を使用せずバスを抜けてトラックへ向かおうとしたときにバス先端のゴム部を踏み込んだため体勢が不安定となって転落した。	40301	1	50～ 99
2001	12	9 ～ 10	図書館改造工事において、2階床で窓枠のガラスを割る作業の準備としてビニルシートを広げているときに、近くの開口部(エレベーターの昇降路、縦184cm横155cm)から、9.2m下の地下1階ピットに墜落した。	30201	1	10～ 29
2001	11	23 ～ 24	国道の舗装工事現場の交通誘導で、誘導中の作業員と交替するため車道からガードレールの間隙を抜け歩道に行こうとして、車道と歩道の間(約1m)からおよそ9m下の橋脚基礎部分に墜落した。	170201	1	10～ 29

2001	10	15 ～ 16	揚荷作業が終了したので舁に屋根板を掛けるため、屋根板を支える棒(横ビン)を設置し敷設の準備をしていたところ、被災者が乗っていた横ビンが外れて落下し頭部を直撃した。	50202	1	30～ 49
2001	10	15 ～ 16	倉庫2階天井に設置してある定格荷重0.98tのホイストで倉庫1階から木製型枠6枚を2階に吊り上げ、2階床面に降ろすため2階床面の開口部の縁に立ち型枠に手を伸ばし引き寄せようとしたときに、4.1m下の倉庫1階の土間に墜落した。	30201	1	10～ 29
2001	10	9 ～ 10	個人宅新築工事において、地上に鋸(かすがい)を取りに行き2階梁、桁上に戻る途中で2階の床部分の開口部(高さ3.71m)から地上の土間コンクリートに墜落した。	30202	1	10～ 29
2001	9	11 ～ 12	増築中の建物屋根上で屋根材の取付作業中に屋根のルーフファン開口部(大きさ1m四方)から約6.4m下のコンクリート地面に墜落した。	30209	1	1～9
2001	9	1 ～ 2	工場において、鋼線を洗浄する槽内の汚れカスの除去作業に従事していて、深さ約3mある槽と通路との間の開口部(約40×45cm)から墜落した。	11001	1	50～ 99
2001	9	10 ～ 11	屋外の業務用冷蔵庫の上に屋根をかける工事で、屋根になる鉄製の波板を仮置してあった駐車場の屋根から2名で運んでいたところ、後向きに進んでいた者が駐車場の屋根の端(高さ4.5m)から建屋との隙間の地面に墜落した。	30201	1	1～9
2001	8	0 ～ 1	機械メーカーの工場2階において使われなくなった機械部品搬送コンベアの撤去工事を行っていて、搬送コンベアの昇降部分の開口部から約7m下の1階昇降路の床に墜落した。	30302	1	1～9
2001	2	8 ～ 9	朝に出勤した従業員が工場1階の床に倒れている工場長を発見したが、工場休憩室の建築現場の中にあった開口部から墜落した。	11301	1	10～ 29
		10	RC造の浄化槽の天端において、やぐらを解体し、ビニールシート(約			

2001	7	11	10m角)をたたんで片付ける作業をしていたときに、天端にあった1m×60cmの開口部から浄化槽の底(コンクリート)まで約5m墜落した。	30209	1	10～29
2001	6	15	14 汚水処理場解体工事において、最終沈殿槽上部の手すり及び目隠し用のガラスウール製波板をガスで溶断しながら撤去していて、深さ4.65mの槽内に墜落した。	30209	1	10～29
2001	4	13	12 機械設備の設置工事において、地上19mの荷揚用開口部からウインチをで鉄板を1階へ降ろすため、鉄板にスクリュークランプを取り付け玉掛ワイヤーロープをスクリュークランプの環に通していたときに開口部から墜落した。	30203	1	10～29
2001	2	12	11 倉庫内にある鉄骨造の中2階の解体作業において、床デッキ(1枚約30kg)を取り外して運搬中に、高さ2.8mの床の端から墜落した。	30309	1	1～9
2001	2	9	8 元請の現場主任が、朝礼前に5階のエレベーターピットの開口部(高さ18.62m)から墜落した。	30201	1	1～9
2001	2	14	13 鉄筋コンクリート10階建のマンション建設工事において、8階ベランダ壁の型枠支保工を解体しているときに、ベランダの手すりと外側にある逆梁との間の開口部から2階床まで墜落した。	30201	1	1～9
2000	1	17	16 木造2階建住宅新築工事において、2階で作業を行っていて、まだ根太が固定されていない押入れ床部の開口部から3.08m下の1階床に転落した。	30202	1	1～9
2000	11	10	9 作業用機材を搬入しているときに閉じられていなかったグレーチング部(開口部)から約10m下に墜落した。	150103	1	30～49
2000	11	11	11 コンクリート工場の資材置場で、上屋材の取り付け作業をしていて高さ約10m足場から転落した。	30309	1	10～29

		12				
2000	10	2 ～ 3	セメントの原料の石灰石を運搬するベルトコンベアーの監視作業に従事していた者が行方不明となったので探していたところ石灰石置場に埋もれているのを発見した。	10901	1	50～ 99
2000	3	13 ～ 14	県営住宅の屋上防水工事で屋上スラブに貼った防水シートに塗る溶剤を別の労働者に手渡そうとしてペントハウス内にある梯子昇降口の開口部から4. 34m下の3階踊り場へ墜落した。	30203	1	1～9
2000	7	11 ～ 12	木造家屋建築現場の2階作業床で屋根部分に取り付ける出窓の部材を製作中に、開口部より墜落した。	30202	1	1～9
2000	12	10 ～ 11	駅出入口正面の消防設備改修工事で、建屋の内側で配水管に巻かれたステンレス製のカバーと保温材の取外し作業を行なっていて風道の地下(高さ6, 3m)に転落した。	30309	1	10～ 29
2000	10	15 ～ 16	7階建雑居ビルの改修工事において、6階と7階との間にあった階段を取り除いた後にできた7階開口部(幅309cm、奥行83cm)を角材と天井材として使用していたプラスターボードで養生しているときに3.2m下の6階床面に墜落した。	30203	1	1～9
2000	8	11 ～ 12	冷蔵倉庫の2階(高さ3. 1m)でフォークリフトで運ばれてきた荷を積み替えているときに、作業床の中央部にある開口部(5m×1. 8m)から墜落した。	80401	1	1～9
2000	2	15 ～ 16	高速道路の桁連続化工事において、鋼製橋脚内部に補強金具を設置するためマンホールから内部に入ったときに、橋脚上端部と円柱形状柱部分との接合部の開口部から3m70cm下方のコンクリート打設面に墜落した。	30105	1	1～9
2000	12	10 ～ 11	壁面等補修工事のための足場を組立て作業で、コンクリート製の梁上で足場板を運んでいてバランスを崩し、11. 7メートル下のコンクリート床面に墜落した。	30199	1	1～9

2000	1	13 ～ 14	7階建建物の解体工事で屋上に建設重機を上げるため、コンクリートガラを落とし用開口部付近にパイプサポートを設けるための墨出し作業中に、高さ11mの5階開口部から1階まで墜落した。	30309	1	10～ 29
2000	12	14 ～ 15	新築工事現場の天井上で空調ダクトの取り付け作業が終了したので現場の片付け作業のためダクト用の蓋を開けてゴミを取ろうとしたときに、4. 2m下に墜落した。	30203	1	1～9
2000	10	10 ～ 11	エスカレーター設置工事で、パネルの取り付け作業中に4階エスカレーター踊り場から建物の吹き抜け部へ転落した。	30209	1	10～ 29
2000	4	14 ～ 15	中2階の作業場で出荷する品物の分別作業を行っているときに、在庫のない品物の伝票を1階に戻すためプラスチック製の籠に伝票を入れて手で釣り下げていたところ、後ろからきた手押し式の籠車(荷運び用台車)に押され1階に転落した。	50101	1	10～ 29
2000	1	8 ～ 9	同僚と巡視中にオーケストラピットへの扉の施錠の状況を確認しようとして、誤まって、深さ2. 7mのピット内に墜落した。	170201	1	100 ～ 299
2000	12	17 ～ 18	木造3階建新築工事現場において、エレベーターの設置予定のピットに墜落した。	30202	1	1～9
2000	2	13 ～ 14	建売住宅の新築工事現場において、2階の廻縁取付作業のため、2階廊下(高さ2. 7メートル)を移動していて開口部から1階廊下に転落した。	30202	1	1～9
2000	12	17 ～ 18	浄水場新築工事において、1階に設置された資材置場に資材を取りに行くために中2階の通路を移動中、深さ6. 5mの浄水槽に墜落した。	30203	1	10～ 29
2000	11	14	船舶の電装工事で、船内に設置していた溶接機を船外を經由して別の作業場所に移設しようとしたときに、船外に設置していた足場(高さ	30301	1	1～9

		15	3. 43m)から墜落した。			
1999	12	15 ～ 16	工場内部の中2階の解体工事において、鉄板部分をガス溶断し、移動式クレーンを用いて吊りながらはがしていく作業で、クレーンの誘導作業を行っていた者が、吊り上げた作業床部分に生じた開口部から約3. 2メートル下の1階床面に墜落した。	30201	1	1～9
1999	11	17 ～ 18	鉄骨造り六階建のマンションの新築工事現場で、屋上の屋根の作業が終って工具等をもって屋根上を移動していて、屋根上の開口部(点検口、70センチ×70センチ)から3. 5メートル下の六階床に墜落した。	30201	1	1～9
1999	10	0 ～ 1	工事現場で、昼休み時間中に2階開口部(908×405mm)から3.8m下の1階フロアに墜落した。	30201	1	10～ 29
1999	9	17 ～ 18	取引先倉庫2階で、天井クレーン(吊り上げ荷重2t)とこれに吊ってある鉄製ボックスを使用して荷を1階から2階に運搬する作業の準備をしていたときに、荷揚げ用の開口部(1. 3m×1. 3m)から3. 7m下の1階床に転落した。	80209	1	1～9
1999	8	22 ～ 23	下水道工事において、マンホールの築造のため道路上で覆工板を開けて解体した土留材を25トンラフタークレーンで搬出作業中、荷を地切りした直後にワイヤロープが振れたため、合図者が約13メートル下に墜落した。	30110	1	10～ 29
1999	7	19 ～ 20	舞台稽古中、一幕から2幕への舞台転換のため、幅18m、奥行15mのステージが奥に3m移動したときに、舞台下手袖口でフライング技術者の通訳をしていた者が誤って15, 7m下の奈落に墜落した。	100109	1	1～9
1999	7	22 ～ 23	在日米軍施設内において、貯油施設の管理の作業についていた作業員が、施設内のセパレーター(施設内から海に流出する雨水から油を除去するためのピット)内に沈んでいるのが発見された。	170209	10	50～ 99
1999	1	21 ～	ロックバンドのコンサート終了後、ステージと客席の間に設置されたマイクロホン等の片付けていたときに、ステージを油圧ジャッキで持	170209	1	1～9

		22	ち上げたために生じた開口部から2.4メートル下に墜落した。			
1999	4	9 ～ 10	工場内の梁の塗装をつり足場と天井クレーンのクラブ上に仮設した足場を使用して作業を行っていたときに、足場から足を踏み外して約20m下のコンクリート床に転落した。	30309	1	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	RC造3階建て新築工事において、屋上部に取り付ける手すり寸法確認の作業していたとき、2名のうち1名が2階及び3階の階段上部踊り場から階段取り付け予定箇所の躯体内開口部へ落ち、約10m下のコンクリート製の地下への階段まで墜落し、さらに地下室床まで転落した。	30201	1	1～9
1999	2	8 ～ 9	橋梁基礎部分の測量を行う準備のため開口部を覆っていた木製の板15枚をドラグショベルを用い吊上げて取り除く作業で、玉掛け作業を行っていて、体のバランスを崩して、板が取り除かれた開口部から深さ7.1mのコンクリート上に墜落した。	30105	1	10～ 29
1999	1	10 ～ 11	石綿ボードの取付工事の完成具合を検査中、石綿ボードの上部に敷いてあった鉄板が取り外されていたため、石綿ボードを踏み抜き約6メートル下の地面に墜落した。	10601	1	300 ～ 499
1999	1	16 ～ 17	配水管新設工事において、深さ3.79メートルの掘削構の埋め戻し作業をドラグ・ショベルを使用し行っていて、下請労働者に運転を替わるよう指示した直後に掘削構に墜落し、頭部を強打した。	30110	1	30～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_29.html